

Ratnākaraśānti の綱要書
— — **Triyānavyavasthāna 試訳** — —

林 慶 仁

内容

はじめに

研究

シノプシス

テキスト

和訳

付録 — 「四印のウパデーシャ」 — シノプシスとテキスト

Abbreviations

AAA	Abhisamayālamkāra-loka Prajñāpāramitāvyaḥkāyā, The works of Haribhadra, edited by U.Wogihara The Toyo Bunko 1973
AKBh	Abhidharmakośabhāṣya, Pradhan edition
AKBhS	Abhidharmakośabhāṣyam sphuṭārthavyākhyāsahitam VARANASI, 1987 BAUDDHA BIHARATI
AV	Antarvyāpti (SIX BUDDHIST NYĀYA TRACTS edited by SHASTRI 1989 CALCATTA pp.103-114) of Ratnākaraśānti
G	Golden manuscript, 金写大藏經 天津古籍出版社版
C	Cone 版西藏大藏經
CMU	Caturmudropadeśa (四印のウパデーシャ 北京版3143 Derge版2295 Cone版2248 Narthan版1939) of Advayavajra
JSS	Jñānasārasamuccaya of Āryadeva
JSSN	Jñānasārasamuccayanibandhana of Bodhibhadra
TBh	Tarkabhāṣā of Mokṣākaragupta, A MANUAL OF BUDDHIST LOGIC edited by B.N.Singh Varanasi, 1988
TR	Tattvaratnāvali of Advayavajra

TV	Triyānavyavasthāna (三乘建立 北京版4535 Derge版3712 Cone版3678 Narthan版3328 金写版Vol.35) of Ratnākaraśānti
D	Derge 版西藏大藏經
N	Narthan 版西藏大藏經
NTP	Nayatrāyapradīpa (三理趣燈 北京版4530 Derge版3707 Cone版3673 Narthan版3323) of Tripiṭakamāla
P	北京版西藏大藏經
PPU	Prajñāpāramitopadeśa of Ratnākaraśānti (北京版 No.5579)
PV	Pramāṇavārttika of Dharmakīrti
PVBh	Pramāṇavārttikabhāṣyam of Prajñākaragupta, edited by R. Sāṅkriyāyana, 1953 Patna
PVT(Śa)	Pramāṇavārttikaṭikā of Śākhyabuddhi (北京版 No.5718)
PVT(Śan)	Pramāṇavārttikaṭikā of Śāṅkarānanda (北京版 No.5721)
PVV	Pramāṇavārttika of Dharmakīrti with the commentary Vṛtti of Ācārya Manorathanandin, Bauddha Bharati series 1984
PVSV	The Pramāṇavārttikasvavṛtti of Dharmakīrti, edited by R.Gnoli 1960 Roma
PVSVT	Pramāṇavārttikasvavṛttiṭikā of Karṇakagomin, RINSIEN BOOK CO. 1982
BA	The Blue Annals , by George N Roerich, Motilal Banarsidass, 1988
BMPP	Bodhimārgapradīpapañjikā (菩提道燈細疏 北京版5344 Derge版3948 Cone版3915Narthan版4133) of Atiśa
MAU	Madhyamālamkāropadeśa of Ratnākaraśānti (北京版 No.5586)
MPK	Mahāyānapathakrama (大乘道次第 北京版4540 Derge3717 Cone版3683 Narthan版3333) of Subhagavajra
MPS	Madhyamakālamkāravṛtti Madhyamakapratipadāsiddhi of Ratnākaraśānti (北京版 No.5573)
MMP	Mahāyānamelāyanapradīpa (大乘撰燈 北京版4543 Derge版3720 Cone版3683Narthan版3336) of Kṛṣṇapāda
MS	Mahāyānasamgraha of Asaṅga (撰大乘論)
MSA	Mahāyānasūtrālaṅkāra of Asaṅga (大乘莊嚴經論) , Buddhist Sanskrit Text 13
MVT	Madhyāntavibhāgaṭikā of Sthiramati (中辺分別論疏)
RAA	Sūtrasamuccayabhāṣyam Ratnālokālamkāra of Ratnākaraśānti (北京版 No.5331)
LKh	Lta ba'i khyad par of Ye śes sde
LS	Laṅkāvatārasūtra, 『梵文人楞伽經』 南條文雄校訂 大谷大学藏版 1956
VMS	Vijñaptimātratāsiddhi of Ratnākaraśānti (北京版 No.5756)
ŚM	Śuddhamati (Abhisamayālamkāra-kārikā-vṛtti-śuddhamati-nāma, 現觀莊嚴論

- 註具足淨北京版 No5199) of Ratnākaraśānti
- Sār Sāratamā (or Sārottamā) of Ratnākaraśānti, Skt. text, ed. by Jaini 1979 Patna (北京版 No5200)
- SthS Sthitisamuccaya of Sahajavajra
- SMVK Sugatamatavibhaṅgakārikā of Jitāri
- SMVBh Sugatamatavibhaṅgabhāṣya of Jitāri
- 大正 大正新修大藏經
- [Chattopadhaya] Alaka Chattopadhaya "ATĪŚA and TIBET" Motiral 1981
- [Hayes,Gillon] Richard P.Hayes and Brendan S.Gillon 'INTRODUCTION TO DHARMAKĪRTI'S THEORY OF INFERENCE AS PRESENTED IN PRAMĀṆAVĀRTTIKASVOPAJNĀVṚTTI 1-10' Journal of Indian Philosophy 19
- [Kajiyama1] Yuichi Kajiyama 'Controversy between the sākāra- and nirākāra-vādins of the yogācāra School – some materials' 日本印度学仏教学研究14-1
- [Kajiyama2] YUICHI KAJIYAMA 'AN INTRODUCTION TO BUDDHIST PHILOSOPHY ' 京都大学文学部研究紀要第十
- [Katsura] Syoryu Katsura 'A SYOPSIS OF THE PRAJNĀPĀRAMITOPADEŚA OF RATNĀKARAŚĀNTI' 印度学仏教学研究25-1
- [Lindtner] Chr.Lindtner "NĀGĀRJUNĪĀNA" Buddhist Traditions Delhi 1990
- [Lévi,Yamaguchi] MADHYĀNTAVIBHĪGAṬĪKĀ de STHIRAMATI, 鈴木学術財団復刊叢書 7,1970
- [Mimaki1] Katsumi Mikami "LA RÉFUTATION BOUDDHIQUE DE LA PERMANENCE DES CHOSES (STHIRASIDDHIDŪŚAṆA) ET LA PREUVE DE LA MOMENTANÉITÉ DES CHOSES (KṢANABHĀṄGASIDDHI) " PARIS,1976
- [Mimaki2] Katsumi Mimaki "Blo gsal grub mtha" ZINBUN KAGAKU KENKYUSYO, Kyoto 1982
- [Mokerjee,Nagasaki] S.Mokerjee,II.Nagasaki "The Pramāṇavārttikam of Dharmakīrti" 1964,Patna
- [Mori] Masahide Mori 'Ratnākaraśānti's Sādhana ' Literature' 『渡辺文麿博士追悼記念論集 原始仏教と大乘仏教 (上)』 永田文昌堂 1993
- [Raghu] Raghu vira 'Mañjśrīnāmasaṃgīti' Śatapīṭaka Vol.18
- [Ruegg1] D.Seyfort Ruegg 'The gotra, ekayāna and tathā-gatagarbha theories of the Prajñāpāramitā according to Dharmamitra and

- Abhayākaragupta' "PRAJÑĀPĀRAMITĀ AND RELETED SYSTEMS"
1977 Berkeley
- [Ruegg2] D.Scryfall Ruegg "THE LITERATURE OF THE MADHYAMA
SCHOOL OF PHILOSOPHY IN INDIA" OTTO HARRASSOWITZ,
WIESBADEN, 1981
- [Sarla] Sarla Khosla "HISTORY OF BUDDHISM IN KASHMIR" New Delhi, 1972
- [Shastri] "Advayavajrasaṅgraha" edited by MAHAMAHOOPADHYAYA HARAPRASAD
SHASTRI Oriental Institute, Baroda, 1927
- [Tucci] Giuseppe Tucci 'RATNĀKARASĀNTI ON ĀŚRAYA-PARĀVṚTTI '
ASIATICA Festschrift Friedrich Weller 1954
- [磯田1] 磯田熙文 「『Muktikāvali』について」日本印度学仏教学研究23-1
- [磯田2] 磯田熙文 「pāramitā-yāna と mantra-yāna」東北大学文学部研究年報
第二十八号
- [磯田3] 磯田熙文 「Ilevajra-sādhanaについて - Śānti-pa の理解を中心に」日
本仏教学会年報第42号
- [磯田4] 磯田熙文 「Ratnākaraśānti, 『Suddhimati』第2章(1)」『井原照蓮
博士古稀記念論文集』井原照蓮博士古稀記念会 1991
- [磯田5] 磯田熙文 「RatnākaraśāntiとAbhayākaragupta」成田山仏教研究所紀
要11号
- [一島1] 一島正真 「『菩提行経』と『大乘宝要義論』との関係について」大正
大学研究紀要7 2
- [一島2] 一島正真 「『修習次第』所引の『経集』について」大正大学研究紀要7 5
- [稲見] 稲見正浩 「『プラマーナヴァールティカ』プラマーナシッディ章の研究
(1)」広島大学文学部紀要5 1
- [宇井] 宇井伯寿 『大乘仏典の研究』岩波書店 第3部 雑録 真理の宝環
- [上山1] 上山大峻 「エイセイデの仏教綱要書」仏教学研究32-33
- [上山2] 上山大峻 「エイセイデの仏教綱要書(2)」仏教学研究37
- [海野1:] 海野孝憲 「ラトナーカラシャーティの三性説」日本印度学仏教研究
20-1
- [海野2] 海野孝憲 「ラトナーカラシャーティの形相説批判」日本印度学仏教研究
24-1
- [海野3] 海野孝憲 「ラトナーカラシャーティの自証説」日本印度学仏教学研究
27-1
- [海野4] 海野孝憲 「ラトナーカラとシュバグブタ」日本印度学仏教学研究31-2
- [海野5] 海野孝憲 「ラトナーカラの無相論者批判」日本印度学仏教学研究32-1

- [海野6] 海野孝憲 「ラトナーカラシャーンティの唯識思想」橋本博士退官記念仏教研究論集
- [海野7] 海野孝憲 「ラトナーカラシャーンティの属した学派」名城大学人文紀要第10集
- [海野8] 海野孝憲 「Vijñāpīmatratāsiddhi の和訳解説」名城大学人文紀要23-24集
- [海野9] 海野孝憲 「Madhyamakālamkāra-upadeśa の和訳解説」名城大学人文紀要30集
- [海野10] 海野孝憲 「Prajñāpāramitopadeśa の和訳解説」名城大学人文紀要40集
- [沖1] 沖和史 「ラトナーカラシャーンティの有形相説批判」印度学仏教学研究25-2
- [沖2] 沖和史 「無相唯識と有相唯識」『講座大乘仏教8』春秋社
- [加藤] 加藤純章 『経量部の研究』春秋社 1989
- [梶山1] 梶山雄一 「ラトナーカラシャーンティの論理学書」仏教史学8-4
- [梶山2] 梶山雄一 「ラトナーカラシャーンティ『内遍充論』」仏教大学大学院研究紀要17
- [梶山、御牧] 梶山雄一、御牧克巳 『経量部 (Sautrāntika) 研究』科学研究費助成金研究成果報告書 1986,3
- [桂] 桂紹隆 「ダルマキールティにおける「自己認識」の理論」南都仏教23
- [斉藤] 斉藤明 「一乗と三乗」岩波講座東洋思想『インド仏教3』岩波書店
- [桜部] 桜部健 「縁覚考」大谷学報36-3
- [酒井] 酒井真典 「龍樹に歸せられる賛歌—特に四賛について—」日本仏教学会年報24号
- [白寄1] 白寄顕城 「善逝本宗分別疏和訳(一)」仏教論叢第27号
- [白寄2] 白寄顕城 「Jitāri の唯識批判(1) — Jitāri と Ratnākaraśānti —」仏教叢第29号
- [白寄3] Kenjo SHIRASAKI 「The Sugatamatavibhaṅgabāśya of Jitāri (1)」神戸女子大学紀要 文学部篇17-1
- [白寄4] Kenjo SHIRASAKI 「The Sugatamatavibhaṅgabāśya of Jitāri (2)」神戸女子大学紀要 文学部篇 18-1
- [白寄5] 白寄顕城 「Jitāri の Sugatamatavibhaṅgabāśya 和訳(2)」密教文化第143号
- [白寄6] 白寄顕城 「Sugatamatavibhaṅgabāśya 第4章 中観派の教義和訳」南都仏教第55号
- [白寄7] Kenjo SHIRASAKI 「The Sugatamatavibhaṅgabāśya of Jitāri (3)」神戸女子大学紀要 文学部篇19-1

- [高田] 高田仁寛 「インド密教から見た仏教の輪郭」 密教文化71・72
- [竹内] 竹内覚 「ラトナーカラシャーンティの二諦説」 日本印度学仏教学研究 22-1
- [立川] 立川武蔵 『西藏仏教宗義研究 第五巻—トウカン『一切宗義』カギユ派章—』 財団法人東洋文庫
- [谷] 谷真志 「ジュニャーナシュリーミトラ「瞬間的生滅論」—思想的テクノロジーの逆転—」 日本印度学佛教学研究44-1
- [長尾1] 長尾雅人 「一乗三乗の論議をめぐって」 『中観と唯識』 岩波書店 所収
- [長尾2] 長尾雅人 『摂大乘論（上）』 講談社インド古典叢書
- [長尾3] 長尾雅人 『摂大乘論（下）』 講談社インド古典叢書
- [生井] 生井智紹 「Kamalaśīla の<一乗思想>について」 印度学仏教学研究 38-2
- [袴谷1] 袴谷憲昭 「Bhavasamkrāntisūtra —解説および和訳—」 駒沢大学仏教学部論集8号
- [袴谷2] 袴谷憲昭 「ラトナーカラシャーンティの転依論」 『大乘仏教から密教へ』
- [羽田野] 羽田野伯猷 「A Historical Study in the Problems Concerning the Diffusion of tāntric Buddhism in India —Advayaajra, alias Mñah-bdag Maitri-pā—」 『チベット・インド学集成 第三巻』 法藏館
- [バッタチャリヤ] B. バッタチャリヤ著 神代峻通訳 『インド密教学序説』 密教文化研究所 昭和37
- [早島1] 早島理 「ラトナーカラシャーンティにおける菩提道」 印度学仏教学研究 25-2
- [早島2] 早島理 「Ratnākaraśānti の中道思想」 印度学仏教学研究26-2
- [波羅密] 波羅密圭之介 「ナーマサンギーティにおける伝達について」 日本仏教学会年報36
- [藤田] 藤田宏達 「三乗の成立について—辟支佛起源考—」 日本印度学仏教学研究5-2
- [梵語1] 塚本啓祥・松永有慶・磯田熙文 『梵語仏典の研究III-密教経典篇-』 平楽寺出版 1989
- [梵語2] 塚本啓祥・松永有慶・磯田熙文 『梵語仏典の研究IV-論書篇-』 平楽寺出版 1990
- [松田] 松田和信 「サハジャヴァジュラの仏教綱要書 (Sthitisamuccaya) —その梵文写本について—」 印度学仏教学研究43-2
- [松本1] 松本史朗 「二 仏教綱要書」 『講座敦煌6』 所収 大東出版社
- [松本2] 松本史朗 「Ratnākaraśānti の中観派批判（上）」 東洋学術研究19-1
- [松本3] 松本史朗 「Ratnākaraśānti の中観派批判（下）」 東洋学術研究19-2

[密教1]	密教聖典研究会 「アドヴァヤバジュラ著作集—梵文テキスト和訳 (1)」大正大学総合仏教研究所年報10号
[密教2]	同上十一号
[密教3]	同上十二号
[密教4]	同上十三号
[望月]	望月慧海 「Ratnākaraśānti の一乗思想」仏教学33号
[森山]	森山清徹 「後期中観派の学系とダルマキールティの因果論— Catuhkotyutpādapratīṣḍhahetu —」仏教大学研究紀要73号
[山田]	山田明爾 「辟支佛・独覚・縁覚」龍谷大学論集No.415
[山口]	山口益訳註 『安慧阿遮梨造 中辺分別論釈疏』鈴木学術財団復刊叢書 8, 1966
[渡辺]	渡辺照宏 「弥勒経—愛と平和の象徴—」『渡辺照宏著作集 第三巻』 筑摩書房

はじめに

10世紀後半から11世紀初頭にかけて活躍したインド仏教学僧に Ratnākaraśānti がいる。彼は顕教のみならず、密教に関しても多数の著作・註釈が有り、彼の仏教史上における重要性は今更述べるまでもない。特に唯識学派の中で唯相派に属することや、内遍充論の立場を取ったこと、しかも同年代に著名な Jñānaśrīmitra, Ratnakīri という対立者がいたことなどのために、仏教論理学の研究に伴って特に注目され、彼の著作はしばしば研究され言及されている。ここではその Ratnākaraśānti の書いた仏教綱要書について見ていきたい。彼には綱要書と呼べるようなテキスト、注釈書がいくつか存在し、TV、PPU や MAU、Muktikāvali などが知られているが、本稿ではそのうち TV のみに対象を絞って見ていく。よってここで綱要書という場合は TV のみを指す。

このテキストは、梵本が伝わらずチベット訳のみ現存している。題名が示す通り、仏教の各派を三乗に分類して記述したものであり、しかも比較的短い文章であるので、彼の理解する各学派の要点を簡潔に知り得ることができるのみならず、諸々の綱要書の内容の相違の検証を通じて、彼の時代的思想史的な位置を知りえる。このテキストに関する研究は既に数件の論文によってなされ、他の綱要書との比較までなされており、筆者の目に触れる研究としては次のようなものがあるが〔高田〕〔Rucg2〕〔磯田1〕〔松本3〕〔海野5〕〔望月〕等〕、まだ全体的な細かい部分までの翻訳研究は出されていないようである。そこで、本稿では、他のテキストを参照しつつ、このテキストの全文の和訳研究をしていく。〔高田〕では既にこのテキストは

Advayavajra の TR ([字井]は梵文、[梶山、御牧] チベット文 あり) や CMU ([磯田2] p.116f.においては CMU が Advayavajra の真作ではなく、Vajrapāṇi 作の可能性が指摘されている) との関連を指摘しているし、更に [海野5] では具体的にその箇所も示され Advayavajra を Ratnākaraśānti より時代的に前に確定された。ここではそれら先人の業績を参照しつつ本テキストの確定をしていく。なお [梶山、御牧] に梵文テキスト [字井] を校訂する予告が出されているが、現在 (1996,12) まで公表されていない。

またこれ以外に使用できると思われる同じ綱要書テキストとしては、Tripiṭakamāla の NTP、Subhagavajra の MPK、Kṛṣṇapāda の MMP、また Atiśa の作とされる BMMP などがあり参照し得る。またこのうち NTP, MPK, MMP は Ratnākaraśānti 以降にあることが [高田] に指摘されており、TV との近似性も指摘できるので十分参照できる。(因に、[Chattopadhaya] p.545ff.には校訂者による還元Skt.が載せられている。)

また Ratnākaraśānti は Advayavajra をよく知っていた、というに留まらず Pūrvācārya と呼んで、深く心酔したと思われるので、Advayavajra の著作は見逃せない。彼の現存する公表されたテキストとしては [Shastri] があり、それを基にして校訂和訳した [密教1] - [同4] は有効である。Advayavajra は別名を Maitrī pa と呼ばれ、Tibet 仏教の視点から見れば、bka' brgyud pa の始祖である Kyuñ po と Mar pa を弟子にしたことで有名である¹。

更に Ratnākaraśānti に残された梵本テキストとしては、彼の残した Aṣṭāśahasrikā と Abhisamayālaṅkāra に対する注釈書 Sār (この八千頌般若経に対する註 AAA では Haribhadra の一乗解釈がある [長尾1]、研究としては [磯田4])、Tucci が発見した、Khasamatantra に対する注の写本 [Tucci] ([袴谷2] はその和訳研究である、Tib.訳是北京版No.2141)、Ratnākaraśānti に帰せられる密教書 Mahāmāyāsādhana の校定テキストとTib. 訳を発表した [Mori]、梶山博士の和訳がある ([梶山1] [梶山2]) AV も参照できる。Tib.訳のみ残る他の書物 PPU ([Katsura] が有益である、また [Kajiyama1] [沖1] [沖2] [早島1] [海野10]) や MAU ([早島2] [海野9])、VMS ([海野8])、Abhisamayālaṅkāra と Pañcaviṃśatisāhasrikā に対する注釈 ŚM ([Ruegg1] [磯田4] [磯田5])、Sūtrasamuccaya に対する注釈書 RAA ([Lindtner] p.172ff. [一島1] [一島2] [望月] 参照)、Madhyamakālaṅkāra に対する注釈書 MPS

¹ Advayavajra の生涯については [羽田野]、[立川] p.4f. が詳しいが、[羽田野] の記述によると、Advayavajra は Ratnākaraśānti に反論するために 'Kudrṣṭīnirghāt', 'Svapnanirdeśa', 'Māyānirukti' の各著作を作成したのみならず(p.168)、Ratnākaraśānti と論争し、それに勝った(p.170) という。しかしこの記録自身の信憑性そのものを疑うことよりも、我々はこの TV を著した Ratnākaraśānti とは同名異人の Ratnākaraśānti の実作を想定しよう。後に見ていく如く、TV の中で Ratnākaraśānti は TR を著した Advayavajra を先師と呼んでいるからである。

も役に立とう。その他にも、Hevajratra に対する注釈書 Muktikāvāli があり、そこにも TV と同様の諸派の区分分けがしてあることは、既に [磯田1] に示されている(また [磯田3] も参照)。

また Ratnākaraśānti の思想全般を扱った論文として [松本2] [松本3] がある。

その他筆者は未見であるが、梵語の残っている Ratnākaraśānti のテキストとして Nairātmyasādhana ([梵語1] p.307)、Guṇavati(nāma)(śrī)Mahāmāyā-ṭikā ([梵語1] p.308)、Vajratārā-sādhana ([梵語1] p.425)、Śrī-sarva-rahasya-nibandha-rahasya-pradīpa-nāma ([梵語1] p.203、また北京版No.3450) があるらしい。

更にチベット大蔵経北京版の索引によると、Ratnākaraśānti に帰せられるTib.文献として

'Khrul pa spoñ ba shes bya ba'i sgrub pa'i thabs (Bhrama-hāra-nāma-sādhana, No.2374)

Lhan cig skyes pa'i rnal 'byor gyi rim pa shes bya ba (Sahaja-yoga-kramanāma, No.2375)

Lhan cig skyes pa'i rnal 'byor dam pa'i 'grel pa sñiñ po rab tu gsal bar byed pa shes bya ba (Sahaja-sadyoga-vṛtti-garbha-prakāśikā-nāma, No.2376)

Rdo rje sgrol ma'i sgrub thabs (Vajra-tārā-sādhana, No.2456)

Dpal sgyu 'phrul chen mo'i 'grel pa yon tan ldan pa (Guṇavati-śrīmahāmāyā-ṭikā, No.2495)

Sgyu ma chen mo'i sgrub thabs (Mahāmāyā-sādhana, No.2515)

Mdor bsduñ pa'i sgrub thabs kyi 'grel pa rin chen phreñ ba shes bya ba (Piṇḍikṛta-sādhnopāyikā-vṛtti-ratnāvali-nāma, No.2690)

Gśiñ rje'i dgra nag po'i sgrub pa'i thabs ku mu da kha bye ba shes bya ba (Kṛṣṇayamāri-sādhana-protphullakumuda-nāma, No.2798)

Dbañ bskur ba'i rim par bstan pa (Abhiṣeka-nirukti, No.3301)

Bsruñ ba lña'i cho ga (Pañca-rakṣā-vidhi, No.3947)

Rdo rje sgrol ma'i sgrub thabs (Vajra-tārā-sādhana, No.4312)

Śes rab kyi pha rol tu phyin paa'i bsgom pa'i man űag (Prajñāparamitā-bhāvanopadeśa, No.5577)

を挙げることが出来る。

既に指摘されたように、Ratnākaraśānti は Advayavajra より時代的に後であるけれども、Advayavajra には Sahajavajra, Devākaracandra, Rāmāpāla, Vajrapāṇi の四人の弟子がおり ([磯田2] p.108、但し[バツタチャリヤ] P.107 によると Lalitavajra と呼ばれる弟子もいたらしい)、その内 Sahajavajra も仏教後要書 SthS を書いており、TV 研究の上で無視することはできない書物である。その研究としては [松田] (有部と経量部の箇所のみ) が現在発表されているが、全体についてはマールブルグ大

学の M.Ham 教授と早稲田大学の岩田孝教授とが共同で研究発表される予定である旨を聞いている。そしてその一部を講読テキストとた早稲田大学大学院の授業を岩田教授から受けてはいるが、現在テキストとしては公表はされていない。また本稿を通じて多少のパラレルは見出しえるが、TV と SthS との確定的な影響は指摘できなかった。更に Sahajavajra は Advayavajra 作 Tattvadaśaka ([密教4] 所収)への註釈も著している (Tattvadaśakaṭikā 北京版No.3099, [松本3] に言及あり、筆者全文を入力済み)。

また Vajrapāṇi も綱要書と呼べる書物 Guruparamparakramopadeśa (No.4359) があり研究もある ([磯田2] p.115ff.)。

関連した仏教綱要書としていくつか挙げるができるが、関連性があると思われるテキストとして Ye śas sde の Lkh, Jitāri の SMVBh, Āryadeva 作と言われている JSS などが考えられる。LKh には上山氏の ([上山1]–[上山2])、SMVBh は白寄氏の ([白寄1]–[白寄7])、JSS には御牧氏の ([Mimaki1]) 一連の優れた研究がある。特に Jitāri は Ratnākaraśānti との関係が既に白寄氏によって研究され、両者が影響しあって、ほぼ同時代の人であると確定されているけれども ([白寄2])、この両者の年代について筆者は意見を持ち合わせていない。本稿においても、TV の中に SMVBh にパラレルな記述がいくつか見出し得て、両者の何らかの関係を指摘できた。また Ratnākaraśānti は先にも指摘した如く Jñānaśrimitra, Ratnakirti はほぼ同年代であるとされている ([Kajiyama]) が、最近更に詳しい影響関係の研究も出されている ([谷])。

また TR は JSS とのパラレルも多く、JSS の文章が当時かなり本質的な要素を持ったテキストとして流布していたことが窺える。

本来、敦煌出土文献までも一応視野に入れる必要もあろうが、敦煌文書から出された、Ratnākaraśānti より前の五種類の綱要書の研究がすでにあり ([松本1])、興味深い内容を含んでいるように思える。しかしこれらの綱要書について、ここで松本氏は、すべて Tib. 人の手になるものと判断されているので、本稿においては参照するのを控える。

綱要書全般については [Mimaki2] の Reference が役に立った。

研 究

さてこの著作における、Ratnākaraśānti の位置を確認しておきたい。

そもそも先に触れたように、彼には綱要書と呼ばれる著作がいくつかあるが、その中でも先ず三乗を全面に打ち出して記述している点で注目される。彼はこの小品を通じて客観的な立場を取り、声聞乗・独覚乗・廣大甚深乗と順次に説明を加えて

いる。その態度は冷静であり、それまでの經典や論書に忠実であり、一つの立場に偏執しない。そしてその内容は Advayavajra の作である TR の影響を大きく受けている。具体的には後に見ていくが、それは彼が TR を引用し、TR が引用する文章を再引用することからも理解される。しかしながらこの TV と TR の両者には、形式的な面から言えば四つ、内容の面から言えば一つの大きな相違がある。

形式面での相違は、第一に経量部の扱いである。TR は経量部を大乘に分類するのに対して TV では声聞乗に分類されている。第二は TR が独覚乗にヴァイバーシカを充てているのに対して TV では部派をどこにも充てていない。第三に、TV では唯識派と中観派を最高に位置付けているのに対して、TV では中観派の上に更に広大甚深乗という真言理趣を設定している点である。第四に TR で大乘とされている乗が TV では広大甚深乗と名称を変えている点である。何故第四の相違が起こったのかは TR と TV との内容的な相違との関連から知ることができる。

彼の解釈する三乗というのは、決して佛になれない者としての声聞・縁覚を認めているのではなく、声聞・縁覚・広大甚深乗ともに、最終的には佛になることを求めているのであり（北京版の位置、以下同115a6f.）、原因として三乗はあるが結果としては一乗である（op.cit）という立場、あるいは世俗としては三乗であるが勝義としては一乗（112a7, 113a4）という立場を取る。であるので無著以来の唯識派で言う、悟りに到達できない衆生を容認する――但し慢心を有して声聞・独覚乗に乗っては解脱できないとするが（113a7）――という立場ではない。しかしながら Ratnākaraśānti が先師と呼ぶ Advayavajra は三乗を説明して、声聞乗・縁覺乗・大乘と分類し（[字井] p.1,10）、三乗が仏陀によって説かれたのは階梯（*soṣāna*）を示すためである（[字井] p.8,7）と所謂一乘真實三乘密意説の立場を示している、Ratnākaraśānti もその説を紹介しているが（112a2）、但し Ratnākaraśānti は声聞・縁覺の者が大乘に乗り換えて悟りに向かうという立場則ち階梯は明示せず、むしろ声聞・縁覺・広大甚深乗を含めた一乗（あるいは大乘）を考えているのであり（112b8）、それは彼の PPU によっても保証されている（153b7f.）。その為か、PPU では確かに第三の乗を大乘と呼んでいるが、TV ではそれをためらい広大甚深乗という名称を与えている。また大乘則一乗という誤解を招きやすいため、三乗則一乗という立場の Ratnākaraśānti は第三番目の乗に大乘という名称をためらったということもあろう。しかし TV では残念ながら、どのようにして声聞なり縁覺等が佛になるのか、という階梯論との相違があるであろう説示への言及はない。以上が TV と TR との内容的な相違である。

続けて彼の記述する TV の内容を見ていこう。彼は――他の著作でも見られる傾向であるが――中観派で頻用される四句分別を最終的に放棄する態度を示している（112a6）。それに反して勝義・世俗という二諦は容認している。そしてこの二諦があることによって、則ち世俗の立場においてのみ甚深のみを有する乗と広大甚深乗

との相違がある(112a3)。世俗の立場においても真言乗は廣大甚深乗と呼び得、それは三種類の大きい性質によって示される(112b4)。それに反して同様に世俗の立場では甚深なる乗は廣大甚深乗ではありえない(113a2)。具体的な例を挙げれば、声聞・独覚は四無数劫を経て、唯識派・中観派は三無数劫を経て自ら最高の道果を得るのに対して、廣大甚深乗の者は少しの時間で無住処涅槃を得るという相違があるからである(113a3)。

だからといって決して勝義の真実から相違してはいない。最高の乗に乗った者は如何なる種類の方便を行っても自己を束縛することがなく、資糧を完成することができる。だから慢心のある声聞や独覚の者に欲望を有した行を示すことにより、先ず喜ばせ、次の執着を離れるようにすればよい。そして執着を離れることとは、戲論を離れることに他ならない。だからまさに方便の神通とは稀有なものと理解してよい(113a4)。

またそこでは義・未了義が介在してくる。方便、則ち未了義は慢心のみを導き出すためであり、了義としては執着を離れることが肝要なものとしてあげられる。よって如何なる乗に乗った者でも、執着によって束縛を生じることが悟りを妨げることを知らなくてはならない(113b3)。だから廣大甚深乗に乗る者は、心の放棄をするようになるのであり(113b1)、先に述べたように一般的に非難されるような行をしても趣が異熟しない。

その執着を離れることとは如何なるものかを、聞いたり理解するだけでは、執着を除去することは出来ない。それさえもまた単なる戲論である(114a2)。

彼は PPU で無相唯識派の立場を取ったことは知られているが、TV では特にその点は強調されていない。中観派については二つの中観派を認め、それぞれが Advayavajra の TR によって分類される二つの中観派に相当することが研究されて解明された(〔海野5〕 p.445)。しかしその中観派の道果についての記述はなく、唯識派の教義の箇所、有相唯識派の道果は単なる仏陀であろうが、無相唯識派の道果は等正覚仏陀であると区別を設けている(114b4, 114b6)。そして本来最高とされる廣大甚深乗則ち真言理趣とも呼ばれる乗については、文章によって知ることができるのではなく、師から教えられるべきものであるし、理論も別の書名を挙げて、Ratnākaraśānti 自身が解釈するのを止めてしまっている(115a3)。

彼はここ TV で自らの立場を説明する為に様々な経典・論書を引く。書名が明示されているものと、明かに理解されるものを示せば次の如しである。

Advayavajra の"TR" (3回)

『月の秘密頂巖等のヨーガタントラ』(東北目録になし)

『金剛曼荼羅の莊嚴という大瑜伽のタントラ』(東北目録になし)

単に『タントラ』あるいは諸の『タントラ』という名前での引用（2回）
" Tattvāvatārākhyā-sakala-sugata-vacas-tātparyā-vyākhyā-prakaraṇa"
" Mañjśrīnāmasaṅgīti"

Nāgārjuna の" Niraupmyastava" かその註釈と思われる一文（類似の文章が
TR に引かれるているもの）

TRに引用される" Saddharmapuṇḍarikasūtra" の再引用句

" Laṅkāvatārasūtra" の一句

" MVṬ" か" MSA" 系統と思われる引用原典不明の詩頌

それ以外にも内容的に引用であると思われる、出典まで遡れる詩句・文章も多いがそれは本文の注に付したのでそちらを参照されたい。

また彼の認識論的な立場は無相唯識であると PPU 等によって解明されているが、この著作の中では各乗を比較的客観的に陳述し、彼は自らの立場を明確にしていない。むしろ真言乗の賛美が目立つのである。それは彼が顕教の学僧であると同時に、密教の学匠であることにも起因しよう。

そこで彼の示す諸乗を表示すれば次の如くである。

諸乗の分類（〔高田〕〔海野5〕に既に指摘あり）

[1] 声聞乗

[1-1] ヴァイバーシカ

[1-1-1] カシュミールのもの

[1-1-2] 中央のもの

[1-2] 経量部

[2] 独覚乗

[3] 甚深で広大である乗

[3-1] 甚深のみであるもの

[3-1-1] 唯識派

[3-1-1-1] 有形相派

[3-1-1-2] 無形相派

[3-1-2] 中観派

[3-1-2-1] 世俗知の形相を真実であると

語る者

[3-1-2-2] 世俗知の形相を習気であると

語る者

[3-2] 甚深で広大である乗

では、彼の三乗説そのものを検証していこう。最初に Synopsys を示し、次にテキストを、次に和訳を示していこう。テキスト中、下線は pratika かそれに準じる単語を示す。また [] は P の、 < > は D の、 () は C の、 [] は N の、 { } は G の位置を示している。和訳とテキストとの関連の表示、つまりテキストでの位置は北京版の場所のみを指摘した。

また最後になりましたが、Tib. 文読解に関しまして、東洋文庫専任研究員の福田洋一先生に、Ratnākaraśānti の研究資料につきましては大正大学助教授の一島正真先生にご指導ご助言を仰ぎましたこと、ここにお礼申し上げます。

Synopsis (表示は北京版での位置を示す)

- [110b8] 題名
- [111a1] 礼拝文
- [111a1] 造論の目的
- [111a3] 乗の種類 ([1] 声聞乗・[2] 独覚乗・[3] 甚深で広大である乗)
- [111a3] [1] 声聞乗の分類 ([1-1] ヴァイバーシカ [1-2] 経量部)
- [111a4] [1-1] ヴァイバーシカの分類 ([1-1-1] カシュミール [1-1-2] 中央) と
[1-1-1] カシュミールのヴァイバーシカの宗議の解説
- [111b1] [1-1-2] 中央のヴァイバーシカの宗議の解説
- [111b1] [1-2] 経量部の宗議の解説
- [111b3] [2] 独覚乗の宗議の解説
- [112a2] [3] 甚深で広大である乗の分類 ([3-1] 甚深だけであるもの [3-2] 甚深で広
大であるもの)
- [112a3] 三乗であって四乗ではない理由
- [112a5] [3-1] 甚深であるもの[3-2] 甚深で広大であるものとの区別 (世俗のみで区
別あり)
- [112a7] 二諦との関連についての疑義
- [112a7] <1> 世俗の真実においては区別があり勝義の真実においては区別がない
理由
- [112b4] <2> 世俗において広大ともなる理由
- [112b8] 諸乗が世俗において仏乗と同じでない理由
- [113a2] 世俗では甚深のみである乗が甚深で広大である乗でない理由
- [113a4] 各乗に相違があっても勝義の真実から相違しない理由—方便・未了義から

の説明ー

- [113b4] 世俗の設定をしないと束縛の状態が説明できないことの説明ー了義からの説明ー
- [114a2] 世俗に住する者が勝義の状態を単に知ったのみでは何の意味もないことの説明
- [114a6] [3-1] 甚深のみであるものには [3-1-1] 瑜伽行派と [3-1-2] 中観派があり、それぞれ
 - [3-1-1-1] 認識が形相を有するとするもの[3-1-1-2]認識が形相を有するとし
ないもの、
 - [3-1-2-1] 世俗知の形相を語るもの [3-1-2-2] 世俗知の形相を習気であると語る
ものに分けること
- [114a8] [3-1-1-1] 認識が形相を有するとするものの宗議の解説
- [114b8] [3-1-1-2] 認識が形相を有するとししないものの宗議の解説
- [114b6] [3-1-2-1] 世俗知の形相を語るものの宗議の解説
- [114b8] [3-1-2-2] 世俗知の形相を習気であると語るものの宗議の解説
- [115a2] 中観派兩派の相違の別解の紹介
- [115a3] 甚深で広大である乗の解説
- [115a6] 三乗を説き、一乗を説かない理由
- [115b6] 結語

テキスト

Triyānavyavasthāna (theg pa gsum rnam par bshag pa)

Ratnākaraśānti

[P nu 110b8] <D tsu 1004a4> (C tsu 99a4) [N nu101b1] {G nu134a1} *theg pa gsum rnam par bshag pa slob dpon rin chen 'byuñ gnas shi bas mdzad pa bshugs so*² //

{134b1} rgya gar skad du [111a1] tri [2] yā na bya ba sthā na nā ma / bod skad du / theg pa gsum rnam par bshag pa shes bya ba //

sañs rgyas dañ / byañ chub sems dpa' thams cad la <5> phyag (5) tshal lo /
 gañ gis theg {2} gsum [2] ñid bshon sbyin pa'i phyag ni rab *brgyañ*³ nas /
 rañ gi śa dañ khrag dag chags [3] *gral*⁴ 'gro la rnam 'brel⁵ pa /
 theg gsum *gsuñ*⁶ po śā kya'i dbañ po ñid la phyag 'tshal nas /
 bla ma'i bka' dañ gshuñ mañ mthoñ {3} phyir theg [3] gsum (6) rnam <6>
*gshag*⁷ bya //

theg pa rnams ni gsum ñid du rnam par bshag par mthoñ ste / ñan thos dañ ldan pa'i [4] theg pa dañ / rañ sañs rgyas kyi theg pa dañ / zab ciñ rgya che ba dañ ldan pa'i theg pa'o //

de la ñan [4] thos {4} dañ ldan pa'i theg pa ni rnam pa gñis te / byc brag tu smra ba dañ / mdo sde <7> (7) pa'o //

yañ bye drag tu smra ba ni kha che'i *ñid*⁸ dañ / yul dbus *kyi*⁹ shes bya'o /
 da ni rañ gi grub [5] pa'i mtha' cuñ zad brjod dc / dbañ po dañ [5] don las

² D C N omit, G omits last 'so.'

³ P C D; bkyañ :N .

⁴ G; pa la :P D C.

⁵ P C; 'gyed:D : 'byed :G N.

⁶ P C D G; gsum :N.

⁷ P D C N G do not indicate 'bshag'.

⁸ D C omit.

⁹ C G; kyi :D P N.

'byuñ {5} ba'i blo¹⁰ rnam pa med ciñ¹¹ / dbañ po don ma lus pa ni goñ bu dañ
 nthun par gnas pa'i rdul phra rab cha śas¹² med pa'i¹³ ño bor <100b1> (99b1) rtog
 ciñ¹⁴ 'dus¹⁵ byas thams cad mi rtag¹⁶ la bdag med par 'dod pa¹⁷ ste / [6] [6] nam
 mkha' dañ 'gog pa dag dañ / de {6} bshin ñid rnam rtag par 'dod pas¹⁸ rnam par
 spyod pa'o¹⁹ / 'di dag ni 'bras bu me śin²⁰ ltar bstan du med pa dañ / de'i sñon du
 soñ ba'i phuñ po lhag ma dañ bcas pa <2> shes (2) bya [7] ba dañ gñis su²¹ grub
 par byed pa ste / de dag [7] grub pa {135a1} gcig dañ sgrub pa la gnas pa bdun
 gyi skyes bu 'phags pa'i khoñs su gtogs pa zuñ bshi dañ / gañ zag brgyad ces

¹⁰ AKBh p.28,22 indriyaviṣayavijñānam anyonyabhajānam -- .

¹¹ AKBh p.401,20 evaṃ tarhi prajñā sākārā na bhaviṣyati .

¹² C N G; śes :P D.

¹³ AKBh p.32,15 niravayavāś ca paramāṇavaḥ .

¹⁴ JSSN mig la sogs pa'i dbañ po dag las skyed pa'i blo ste / rnam par śes pa dag la rigs mi 'dra
 ba dañ / rdul phra rāb kyi rnam pa med ciñ blo dañ dbañ po de dag gis mGon sum du rig pa gzugs
 la sogs pa ni rdul phra rab bskor ba'i tshogs su gnas par 'dod te / [Mimakil] p.192,28ff.

¹⁵ N G; 'das :P D C.

¹⁶ P D N G; tag :C.

¹⁷ SthS [松田] p.207,27 anityaṃ saṃskṛtaṃ sarvaṃ pañcaskandhātmakaṃ jagat /. 更に AKBh
 p.80,22f. and p.108,25 sarvasaṃskārā anityāḥ sarvadharmā anātmanah śāntaṃ nirvāṇam .

¹⁸ SMVBh [白鷺6] p.36,1f. nam mkhaḥ dañ ni 'gog pa gñis / 'dus ma byas gsum rtag pa ste // ま
 た SthS [松田] p.207,25 ākāśaṃ dvau nirodhau ca nityaṃ trayam asaṃskṛtam /. 更に AKBh p.92,3f.
 etāvat tu śakyate vaktuṃ nityaṃ kuśalaṃ cāsti dravyāntaram . tadvaiśamyogaś cōcyate pratisaṃkhyānirodhas
 cāiti . sarvaṃ evāsaṃskṛtam adravayam iti sautrāntikāḥ .

また TBh p.92,19

ākāśaṃ dvau nirodhau ca nityaṃ trayam asaṃskṛtam /

saṃskṛtaṃ kṣanikaṃ sarvaṃ ātmaśūnyam akartṛkam //.

¹⁹ JSSN では中央インドのVaibhāṣika の説として次のように述べている。

Yul dbus kyi bye drag tu smra ba dag ni 'dus ma byas bshir 'dod pas / -- / bshi gañ she na /
 nam mkha' dañ / so sor brtag pa ma yin pa'i 'gog pa dañ / so sor brtag pa'i 'gog pa dañ / de bshin
 ñid do shes rtsod pa smra ste / [Mimakil] p.192,2ff.

²⁰ P D C N; śi ba :G.

²¹ P N G omit.

bsgrags pa 'di ltar rgyun tu shugs pa'i [8] *phyir*²² shugs pa dañ / rgyun tu shugs pa dañ / lan <3> cig *phyir* 'oñ (3) ba'i *phyir* shugs pa dañ / [111a1] {2} lan cig *phyir* 'oñ ba dañ / *phyir* mi 'oñ ba'i *phyir* shugs pa dañ / *phyir* mi 'oñ ba dañ / dgra bcom pa'i *phyir* shugs [111b1] pa dañ / dgra bcom pa ste go rims bshin no²³ / yul dbus kyi {3} bye drag tu smra ba rnam kyañ gnas 'di²⁴ rnam mñam <4> [2] pa ste / phra mo dag ni de dag ñid 'don pa'i (4) chos mñon pa rgya cher *blta*²⁵o //

mdo sde pa rnam ni blo [2] rnam pa dañ bcas pa ñid du skye bar rtog cin²⁶ blo'i rnam pa rnam kyañ de dañ 'dra ba {4} gshan gyi rnam pa las *skye*²⁷ la / de yañ rdul phra rab kha dog dañ [3] rjes su mthun par gnas pa'i bdag ñid <5> du 'dod do / yañ 'di [3] dag ni dus gsum dag 'di khas mi len (5) cin²⁸ 'dus ma byas rnam kyañ mo gsham gyi bu dañ 'dra bar 'dod {5} pa ste²⁹ / 'bras bu dañ de la

²² P N G; par :D C.

²³ AKBh p.49,8f. ke punar antyc . srotaāpattiḥalam arhattvaṃ ca . ke madhye . sakṛdāgāmiphalaṃ anāgāmiphalaṃ ca . また AKBh p.366,1f. ta etc sarva evāṣṭāv āryapudgalā bhavanti . pratipannakāś catvāraś ca phale sthitāḥ . tad yathā -- srotaāpattiḥalasākṣātkriyāyai pratipannakaḥ srotaāpannaḥ . evaṃ yāvad arhattvaphalasākṣātkriyāyai pratipannako 'rhan iti . 更に AKBhS p.974,16ff. tathā ca sati dravyataḥ sapta bhavanti -- srotaāpattisakṛdāgāmyanāgāmiphalaḥpratipannakāś trayas catvāraś ca phalasthā iti arhattvaphalaḥpratipannaka eko 'nāgāmiphalaḥsthan na vyatirikta ity avagantavyam.

Sār p.162,17ff. evaṃ śrotaāpannamārgo yāvad arhanmārgaḥ pratyekabuddhamārgo bodhisattvamārgo buddhamārgaś ca jñātavyaḥ sahetuḥ saphalaḥ . ye ca yasmin phale vyavasthāpaniyās tāms tṣu vyavasthāpayati yāvad buddhatve [correct yāvabuddhatve] . また PPU 160a1 ñan thos dañ sañs rgyas dag ni dgra bcom par 'gyur la / 参照。

²⁴ D C; 'dir :P N G.

²⁵ D C N G; bsta :P.

²⁶ JSS śes pa rnam pa bcas pa skye / [Mimaki2] p.186,20.

²⁷ C G; skyes :P D N. また SthS [松田] p.209,5

śes pa rañ gi rnam pa ni /

skyes pas yul ñid thob par 'gyur //.

更に TBh p.94,5 svākārajñānanajanakā dṛṣyā nēndriyagocarāḥ. (文中 svākāra を[Kajiyama2] p.193より svākāra- に直す)

²⁸ JSS gus gsum dag kyañ khas mi len / [Mimaki1] p.186,25.

²⁹ JSS [Mimaki1] p.186,21f.

'dod pa dañ gnas pa sña ma bshin te //

'on kyañ [4] mdo sde pa rnams ni rañ [4] sañs rgyas su 'gyur ba'i skal pa can no / <6> 'di ³⁰ni ñam thos kyi theg pa rnam par bshag pa'o / shugs pa dañ de la³¹ (6) gnas pa dañ / {6} de dag³² ñid dbañ po'i khyad par gyis bsc ru ltar rgyu ba dañ / tshogs dañ [5] spyod pa dañ / gshir³³ [5] rañ sañs rgyas ni rnam pa gñis las gshir³⁴ 'gyur ba'o / 'di dag gi khoñ du chud³⁵ pa ni mthun <7> par rten ciñ 'brel par 'byuñ ba yan lag {135b1} bcu gñis las 'khor bar 'byuñ ba (7) dañ / [6] de 'gags pas mya ñan las 'das par 'gro bar rtogs pa'o³⁶ / [6] 'dir 'di dag gi bar chad med pa'i lam ñi tshe bśad pa ltar yin gyi / 'bras bu thob pa la phan pa'i sdom pa'i tshul {2} khirms <101a1> la sogs pa ni [7] ñan thos rnams dañ mthun par de la 'byuñ shiñ /

nam mkhañ mo gśam bu 'dra la /

'gog pa nam mkhañ dañ 'dra'o // ,

SMVK [白晝1] [白晝3] p.93 k3cd

nam mkhañ mo gśam bu bshin te /

'gog pa gñis ni nam mkhañ 'dra // .

³⁰ inserted ña :G.

³¹ N omits.

³² D C N G; inserted dañ : P.

³³ P N G; bshir :D C.

³⁴ P N G; bshir :D C.

³⁵ P C D G; chus :N.

³⁶ Sār p.152,17ff. kauśalyaṃ pratītyasamutpādasyānulomaṃ ca vyavalokanam — "avidyāpratītyāḥ saṃskārāḥ saṃskārapratītyaṃ vijñānaṃ yāvaj jātipratītyā jarāmarāṣaśokaparidevaduḥkhadaurmanasyōpāyāsāḥ sambhavantīty anulomam . avidyānīrodhāt saṃskāranīrodhah saṃskāranīrodhād vijñānanīrodho yāvaj jātinīrodhāj jarāmarāṣaśokaparidevaduḥkhadaurmanasyōpāyāsā nirudhyante " iti pratilomam .

また LKh [上山1] p.36,p.43 rañ sañs rgyas kyi theg pa ni / rten ciñ 'brel par 'byuñ ba'i yan lag bcu gñis kyi sgo nas 'jug ste // 'khor ba'i ñes dmyigs rgyas śi mthoñ nas / ci la byuñ shes brtags na / de'i rgyu ni skye ba yin bar [rig] la // de bshin du stsas bead na / goñ nas goñ du ma rig pa la thug ba'i bar du rgyu dañ 'bras bu'i tshul du rtogs nas / rten cig 'brel par 'byuñ ba tsam du zad de / — / ma rig pa de dgag du ruñ la / de dgag pa na / rgas śi'i bar du 'gag par mthoñ ste / rten ciñ 'brel par 'byuñ ba lugs dañ mthuñ ba dañ / lugs dañ myi mthun ba kun nas ñon moñs pa dañ / rnam par byab ba'i phyogs ma rtogs pas / 'khor ba'i sdug bśal gyis skyo śiñ / yid byuñ ste / — .

'bras bu'i bdag nid (100a1) kyañ shi ba nid nan thos mams [7] dan mham pas
 gnas pa'o / 'di dag la nes par tshul khriims kya⁷ sdom pa la gnas pa 'byuñ ba {3}
 dan / [8] rten cih 'brcl bar 'byuñ ba <2> rtoḡs par 'gyur ba'i rkyen 'byuñ ba ni tshon
 dpon bden par smra ba bshin tc / bskal (2) pa brgya^{7,8} bar du⁹ dc dan [111b1]
 'brcl ba'i las dc dag gts⁴⁰ bsgs⁴¹ pa'i phytir ro / rten cih 'brcl bar [112a1] 'byuñ ba
 {4} nams ji lar bsgom pa ni 'dir ma smras tc / gshuñ mañs⁴² pa la mi dga' ba dan
 / <3> mdo sdc nams las gsal bar snan bas⁴³ so / 'di ni ran sags rgyas kyi theḡ pa
 mam par [2] (3) bshag⁴⁴ pa'o //

zab cih rgya che ba⁴⁵ dan ldan pa'i theḡ {5} pa ni nam pa gñis tc / zab pa 'ba'
 shig dan ldan pa dan / zab pa dan rgya che ba gñi ga dan ldan pa'o / 'di dag nid la
 theḡ pa <4> cheñ po shes brtod cih⁴⁶ / dbye ba [3] nam pa gñis nid⁴⁷ la slob [3]
 dpon sha mas pha rol tu phyin pa'i {6} tshul dan / (4) gsan shags kyi tshul gyi⁴⁸ theḡ pa

³⁷ P D N G; kyi :C.

³⁸ N; brgya : C G; bsgya :P D.

³⁹ 大智度論卷十八に「大辟支佛亦於一百劫中、作功德增長智慧」とある（大正巻25, p.191b）。

⁴⁰ P C N G; gsal :D.

⁴¹ C N G; bsag :P D.

⁴² 「多<の>」の意味で man を想像させるが、mans で「多<の>」という意味がある可能性もあるの
 で、このままにしておく。

⁴³ P C D G; ba :N.

⁴⁴ P D N G gshag :C.

⁴⁵ P D N G omit.

⁴⁶ latera trini yāñāñi, śrāvakayānam pratyekabuddhayañam mahāyānam cēti. TR [字] p.1,10C.

項に de yañ theḡ pa ni nam pa gsum ste / — theḡ pa cheñ po'o / CMU 231a3C. 付録参照。

⁴⁷ dviḡdham [字] p.1,13 [海] p.446.

⁴⁸ mahāyānam ca dviḡdham, pāramitānayo mantranāyās cēti. TR [字] p.1,13C. [海] p.446

またMPK 207a1

de la theḡ cheñ nam gñis tc /

pha rol phyin loḡs theḡ pa dan /

theḡ pa cheñ po gsañ shags tc /

chen po shes kyañ gshag pa'o //

gal te gcig la ni zab pa ñi tshc ldan shiñ / de bshin du gcig la ni [4] zab pa dañ rgya che ba gñi ga <5> *dan*⁴⁹ ldan na / de'i tshc theg pa dag ni bshir [4] 'gyur ba ma yin {136a1} nam / ji ltar na theg pa gsum du rnam par *bshag*⁵⁰ ce na / 'di la ñes pa (5) med de / bden pa gñis la gnas pas bdag [5] dañ gshan gyi don⁵¹ phun sum tshogs par *sgrub*⁵² pa la dbye ba med *pas*⁵³ {2} so //

de lta na ci'i <6> phyir zab pa 'ba' shig dañ ldan pa dañ [5] zab ciñ rgya che⁵⁴ gñi ga dañ ldan pa'i khyad par 'byuñ / gshan du na 'di dag gi bden pa [6] gñis ñid la (6) khyad par yod par brjod dgos so / 'di ni legs par smras {3} pa stc /

don *dam*⁵⁵ pa'i bden pa ñid la ni nam yañ dbye ba 'ga' <7> shig kyañ 'byuñ [6] ba med la / kun rdzob ñid kyis zab pa dañ rgya che bar 'gyur ba'o //

[7] ci'i phyir kun rdzob kyis bden pa la khyad par yod kyis / don *dam*⁵⁶ pa'i bden pa {4} la (7) *de*⁵⁷ mi dmigs / kun rdzob tsam gyis rgya che bar yañ ji ltar 'gyur / 'di na don dam pa'i bden pa dbu ma pa [7] rnam kyis <101b1> rnam par *bshag*⁵⁸ pa [8] ni yod pa dañ / med pa dañ / yod pa dañ / med pa gñi ga dañ / yod pa dañ {5} med pa gñi ga ma yin pa shes bya ba'i mtha' rnam pa bshi las ñes par grol *ba*⁵⁹ / (100b1) spros pa'i mtshan ma nub pa dag gi las 'das pa ñid *yin*⁶⁰

⁴⁹ P N omit.

⁵⁰ P D N G; gshag :C.

⁵¹ inserted sum :G.

⁵² P D N G; pa bsgrub :C.

⁵³ P D C G; pa :N.

⁵⁴ ba inserted N.

⁵⁵ P C D G; dam :N.

⁵⁶ P C D G; dam :N.

⁵⁷ C N G; om. :P D.

⁵⁸ P N G; gshag :D C.

⁵⁹ P D N G; ga C., また [Mimaki2] p.194 により、Jñānasārasamuccaya k.28

na san nāsan na sadasan na cāpy anubhayātmakam /

catuskoṭivinirmuktaṃ tattvaṃ Mādhyamikā viduḥ // ,

更に Sarvasdarśanasamgraha III k7 .

[112b1] no / [112a1] tshul 'di las gshan pa'i don dam pa'i bden <2> pa rnam par 'jog na dc'i tshe ñes {6} par yod pa la sogs pa'i mtha' rnam pa bshir 'jug par 'gyur te / gañ mtha' rnam pa bshi yañ ma yin la dbu ma pa [2] dag gis rnam par [2] *bshag*⁶¹ (2) pa'i bden pa yañ ma yin pa *de ni nam*⁶² yañ *brñes*⁶³ par mi 'gyur⁶⁴ ro / gal te mtha' rnam {136b1} pa bshi las 'ga' <3> shig don dam pa'i bden par *yoñs*⁶⁵ su rtog na dc'i tshe rnal 'byor spyod pa *pa*⁶⁶ kho na bas [3] 'bad pa chuñ dus rnam par bzlog par nus so / dc'i phyir [3] don dam pa'i bden pa / bcom ldan (3) 'das

na san nāsan na sadaśan na cōbhābhyāṃ vilakṣaṇam /
catuṣkoṭiviniṃmuktaṃ ta(t)tvam Mādhyamikā viduḥ // ,

Cf. TR [字井] p.6,12ff. [海野5] p.114

tatra māyōpamādvayādināḥ vivṛtiḥ—

na san nāsan na sadasan na cāpy anubhayātmakam /
catuḥkoṭiviniṃmuktaṃ tattvam Mādhyamikā viduḥ // ,

また TR [字井] p.6,21ff. [海野5] p.114

sarvadharmāpratiśṭhānavādināṃ tv ayaṃ vicārah —

na matam śāśvataṃ viśvaṃ na cōcchedisamlhitam /
śāśvatocchedino yugmāṃ nānubhayaṃ vinōbhayam // ,

また [桂] p.38より、Bodhicaryāvatārapañjikā p.177,11f.(Buddhist Skt. text)

na san nāsan na sadasan na cāpy anubhayātmakam /
catuḥkoṭiviniṃmuktaṃ tattvam Mādhyamikā vuduḥ // ,

更に [密教3] p.291,10f.

catuḥkoṭiviniṃmuktaṃ tattvam tattvavido viduḥ /
catuḥkoṭiviśuddhaṃ tu catuṣkoṭisamāśritam // .

⁶⁰ P D C N; yi :G.

⁶¹ P D N G; gshag :C.

⁶² C N; om. :P D , de :G.

⁶³ C N; rñed :P G, brñed :D.

⁶⁴ P D C N; 'gyu :G.

⁶⁵ P D C N; yoñ :G.

⁶⁶ N omits.

dañ klu sgrub la sogs pas rnam {2} par *bshag*⁶⁷ pa las khyad par gyur pa'i don
 dam pa'i bden pa <4> gñis [4] pa ni med do (;) kun rdzob tsam gyis ji⁶⁸ ltar rgya
*che*⁶⁹ bar 'gyur shes gañ smras pa ni 'dir /
 dmigs pa rnam par [4] dag pa⁷⁰ dañ /
 grogs kyi mthu dañ spyod pa yis /
 blo {3} ldan rnams kyi theg pa ni /
 (4) chen po'i *chen*⁷¹ po [5] ñid du bsgrags⁷² /
 'di'i don ni ji ltar snañ ba'i dmigs pa rnams <5> mam par dag pa'i lha'i bdag ñid du
 mñon par rtogs pas dmigs pa rgya che ba⁷³ dañ / [5] dus gsum du rgyal ba

⁶⁷ P D N G; gshag :C.

⁶⁸ P D N G; gyi :C.

⁶⁹ P D C N; cher :G.

⁷⁰ MS では四種清淨 (caturvidhavisuddhi) として、本性 (prakṛti) 離垢 (vaimalya) 道 (mārgatā) 所
 緣 (ālambana) が挙げられている ([長尾2] p.384,p84)。また MVT も同様である (p.112, [長尾2]
 op.cit)。

⁷¹ D C N G; shen :P.

⁷² この韻文の出典及び作者については確定出来ないが、MVT (Yānānuttaryaparichedah) に、
mhāyānasya hi trividham ānuttaryam iti . kiṃ punas tan mahāyānam . etad eva tritayaṃ pratipattir
ālambanam samudāgamaś ca . [Lévi,Yamaguchi] p.199,19ff. とあるし、また大乘の大については、そ
 の理山として七種類の大有ることがMSA IV (Guṇādhikāra)59, 60にあることが知られている ([山
 1] p.321 [上:山2] p.75)。具体的には以下の如し (MSA p.164,11ff.)。

ālambanamahatvañ ca pratipatter dvayos tathā /
 jñānasya vīryārambhasya upāye kasaśalasya ca / 59 /
 udāgamamahattvaṃ ca mahattvaṃ buddhakarmaṇaḥ /
 etanmahattvayogād dhi mahāyānaṃ nirucyate / 60 /

よってこの詩句は MVT あるいは MSA の系統を引くものであろうことが予想される。単純に考え
 れば、MVT で出された大乘の三無上義を三種類の大有に置き換えたものとも考えられる。

(cf. LKh [上:山1] p.37, p44 chen po ni ñan thos dañ / rañ sañs rgyas kyi theg pa las / chen po
 rnam pa dbun gyis khyad par du 'phags te / chen po rnam pa bdun ni // dmyigs pa dañ / bsgrub pa
 dañ / ye śes dañ / brtson 'grus dañ / thabs dañ / yañ dag par grub pa dañ / las chen pa'o //)

しかし大の七種の分類には別の種類もあり、全部で二種類の分類があることが知られているが ([山
 1] p.321)、このように三種の大有についての言及はない。

⁷³ LKh [上:山1] p.37, p.44 de la dmyigs pa chen po ni / -- / theg pa chen po'i mdo sdc

rnams kyiis {4} *bsten*⁷⁴ pa'i dam tshig [6] rnams yid bshin du bzuñ bas khyad par du byuñ ba'i byin gyis⁷⁵ (5) *brlabs*⁷⁶ skye bar 'gyur ba⁷⁷ grogs shes bya ba rgya che ba dañ / ji ltar <6> sañs rgyas dañ sa beu'i dbañ phyug rnams 'gro ba'i don spyod pa [6] dañ⁷⁸ / shiñ yoñs su [7] dag par {5} byin gyis rlob pa ltar *rjes*⁷⁹ su skyes pa'i spyod pa rgya che ba ste⁸⁰ / 'di dag dbu ma pa rnams las khyad par du gyur pas de dag la rgya che ba ñid (6) med pa kho na'o / de bas kun rdzob kho nas rnam <7> par *bshag*⁸¹ pa'i bye [8] brag go //

rgya che [7] ba rnam pa de dag gis ni theg {6} pa rnams sañs rgas dañ mñam par bkod pa ma yin nam / de lta na ni don dam pa'i bden pa kho na dañ cig šos dbye⁸² par mi 'gyur te / thams cad 'bras bu la gnas [113a1] pa yin pa'i phyir (7) ro she na / bden mod kyi 'on kyañ <102a1> gañ [112b1] 'dir don dam pa'i {137a1} bden pa lhun gyis grub pa⁸³ la sogs pas mi 'jug pa ltar ni 'di'i kun rdzob ma yin te / ji srid don dam pa rtogs pa de srid [2] rtsal ba dañ beas šiñ lhag par spyos pas so //

de ltar na ni dbu ma pa rnams {2} kyañ yin pas 'di la zab <2> ciñ [2] rgya che ba dañ (101a1) ldan par ji ltar brjod ce na ma yin te / dbu ma pa rnams ni

mthah yas pa / byañ chub sems pa' [la bśad] pa'i chos la dmyigs pa'o // .

⁷⁴ P D N G; brten :C.

⁷⁵ P D N G; gyi :C.

⁷⁶ P D N G; slabs :C.

⁷⁷ MVṬ に pratipatti の ānuttarya を説明して六種ありとし、そこには manaskārapratipatti と viśiṣṭā cāviśiṣṭā ca pratipattiḥ [Lévi,Yamaguchi] p.209, 251 を数える。

⁷⁸ MVṬ niṣpattiparamatā daśamyām bhūmāu tathāgatyām ca bodhisattvanisṣṭyā buddhanisṣṭyā ca daśamyām hi bhūmāu bodhisattvah sarvabodhisattvacaryāniryāta iti -- [Lévi,Yamaguchi] p.205,16ff.

⁷⁹ P D C N; rje :G.

⁸⁰ LKh [上:111] p.37, p.44 brtson 'grus chen po ni / bska pa grañs myed pa gsum du / bya dka' ba rnam pa mañ po la sbyor ba'o // ,

また LKh [上:112] p.60, p.69 dbañ dañ tib ñe 'dzin dañ / mthu dañ byin kyi rlabs dañ // shugs bsam gyis myi khyab pa brñes pas // .

⁸¹ P D N G; gshag :C.

⁸² correct bye :P D C N G.

⁸³ anābhogaṃ [‘j’非] p.7,2.

rgya che ba dañ bral bas / bskal [3] pa grañs med pa gsum gyi 'bras bu la 'jug⁸⁴ ciñ / rnal 'byor spyod pa pa rnams kyañ⁸⁵ ño / de bshin {3} du ñan thos dañ rañ sañs rgyas rnams kyañ bskal pa (2) [3] grañs <3> med pa⁸⁶ bshis⁸⁷ rañ gi 'bras bu dam pa len la [4] theg pa'i mchog la shon pa rnams ni dus cuñ zad kyis *mi gnas pa'i mya ñan las 'das pa*⁸⁸ thob ste / de bas na khyad par chen po dañ {4} beas pa'o / de lta yin du zin kyañ 'di na don dam pa'i bden pa dañ [4] dbyer [5] med de / don dam <4> pa'i (3) bden pa *yoñs*⁸⁹ su grub pa byañ chub sems dpa' byams pa la *sogs*⁹⁰ pas thogs pa mi mña'ba'i⁹¹ spyod pas *rtsun*⁹² mo'i 'khor du rnam par *rtse* {5} *ba*⁹³ la sogs pa spyod pas 'gro ba smin [6] par 'gyur shiñ bdag ñid kun du 'chiñ⁹⁴ ba mi [5] 'byuñ ba ltar / theg pa 'di la gnas pa rnams kyañ thabs dañ <5> (4) śes rab sñoms par 'jug pa *la*⁹⁵ sogs pa *smad pa*⁹⁶ rnam pa du ma *spyod*⁹⁷ pas tshogs *yoñs*⁹⁸ su [7] rdzogs par {6} 'gyur *ro*⁹⁹ / 'di¹⁰⁰ ni thabs gyi rnam par 'phrul pa rmad

⁸⁴ LKh [L:llll] p.37, p.44 brtson 'grus chen po ni / bskal pa grañs myed pa gsum du / bya dka' ba rnam pa mañ po la sbyor ba'o // .

⁸⁵ P C D G; kya :N.

⁸⁶ P omits.

⁸⁷ P C D G; bshi :N.

Cf. *catuhkalpāsamkhyeya* – [‘j’] p.3,5 p.3,22.

⁸⁸ *apratīṣṭānirvāṇa*. cf. Sār p.114,27 *nīrodho nirvāṇaṃ vimukṭiḥ* .

⁸⁹ P D C N; yoñ :G.

⁹⁰ D C omit.

⁹¹ C N G; ba''i :D, ba' :P.

⁹² correct brtsun :P D C N G.

⁹³ D N G; rtsa ba :P, brtse ba :C .

⁹⁴ D C N G; chiñ :P.

⁹⁵ P omits.

⁹⁶ P C N G; smud pa :D.

⁹⁷ correct spyad :P D C N G .

⁹⁸ P D C N; yoñ :G.

⁹⁹ G omits.

du byuñ ba ñid de / skyc bo gañ dag lhag par [6] chags pa dañ ldan pa dañ /
 de bshin lhag par ña rgyal dañ ldan pa'i bar nmams <6> ñan thos (5) dañ / rañ [8]
 sañs rgyas kyi theg pa la sogs pa la {137b1} sbyañs pa thar pa'i skal ba can ma yin
 pa nmams la 'dod chags dañ bcas pa'i spyod pa la sogs *par ston*¹⁰¹ par sems [7]
*yoñs*¹⁰² su *dga' bar*¹⁰³ byas te / rim gyis tshogs [113b1] yoñs su bsags nas sems kyi
 rgyud <7> *gscr bsegs*¹⁰⁴ (6) pa ltar {2} gyur ba na 'dod chags dañ bral ba'i spyod pa
 rdzogs pa'i rim pa kun nas spros pa dañ bral ba ñid rtogs par 'gyur te / de bas na
 theg pa'i mchog [2] [113a1] 'di ñid skyc po ma lus pa bshon par bya ba dam pa
 nmams yid 'phrog pa'o / de'i {3} phyir zla gsañ thig le la <102b1> sogs pa rnal (7)
 'byor gyi rgyud nmams¹⁰⁵ *las*¹⁰⁶ /

mi *bza*¹⁰⁷ ba ni cuñ zad med /

mi bya ba ni cuñ zad med /

[3] thams [2] cad thabs śes sems kyis ni /

dogs med gyur pas loñs spyod bya

shes bya ba la sogs {4} pa rgya cher gsuñs pa ni don gyi dbañ rnam pa gñis la
 brten pa ste / skyc <2> bo gañ dag (101b1) theg pa gshan las [4] spañs pa nmams
 chañ pa stoñ pas me 'bar ba'i [3] khyim nas 'byuñ ba ltar dregs pa drañ ba tsam
*gyi*¹⁰⁸ ched du gsuñs la / yañ {5} gañ dag yun riñ por rdzogs pa'i rim pa bsgoms
 pas 'dod chags la sogs [5] pas mi 'phrogs pa 'dam gyi pa dma lta bu <3> nmams
 kho na la brten te (2) gsuñs pa'o / [4] gshan du 'dod chags la sogs pa tha mal
 pas 'chiñ bar mi 'gyur na {6} skyc bo thams cad thar pa'i gnas su phyin par 'gyur la
 / [6] dam tshig las ñams pa yañ 'ga' yañ mi 'byuñ bar 'gyur te / de ñid kyis ñan

¹⁰⁰ C N G; di :P D.

¹⁰¹ P D C; pa bstan :N G.

¹⁰² P D C N; yoñ :G.

¹⁰³ G; dag 'bañ :P D C N.

¹⁰⁴ G; pa sregs :P D C N.

¹⁰⁵ ? Candraguhyatilakādi-yogatantra、東北目録にはなし。

¹⁰⁶ P D C N; la :G.

¹⁰⁷ P; bzañ :D C N G.

¹⁰⁸ C; gyis:P D N G

soñ yañ nram <4> par chad par thal bar [5] 'gyur¹⁰⁹ ro / de'i phyir (3) gañ dag
stoñ pa ñid la sems {138a1} mñon par dad pa de dag gis kyañ 'dod [7] chags la
sogs pa'i 'bras bu ñes *par*¹¹⁰ ñams su myoñ bar bya dgos te / lha'i rnal 'byor yañ /
yañ dag pa ji lta ba bshin mthoñ ba'i bar chad bycd pa na [6] 'dod <5> {2}
chags *la.sogs*¹¹¹ pa rnams lta smos ci dgos / de'i phyir rdo rje'i [8] (4) dkyil 'khor
gyi rgyan shes bya ba rnal 'byor chen po'i rgyud las¹¹²

rnam pa mañ por kun rdzob kyi
bden pa rnam par bshag nam yañ

gsuñs pa /

dños med ñid kyi phyogs {3} la yañ /

las kyi 'bras bu la [7] soggs pa /

[114a1] <6> rmi lam bshin du ñams myoñ ba /

'di ni mñon sum dag du 'byuñ /

shes bya ba la (5) soggs pas rgya cher don dam pa'i bden pa mñon du ma gyur gyi
bar du kun rdzob kyi¹¹³ bden pa {4} la *shus*¹¹⁴ pas gnas [2] *par*¹¹⁵ *gsuñs*¹¹⁶ so / 'di
*la*¹¹⁷ kun rdzob ñid du yañ [113b1] ma dag pa med par smra ba 'ga' shig byuñ na
<7> ni mñon sum du rigs pa sbyin *shin*¹¹⁸ bden pa gñis la gnas pa'o¹¹⁹ /

theg pa rab kyi mchog 'di ni /

(6) tshul la gnas {5} na thob [3] par 'gyur

shes bya ba la soggs pa rgyud rnams tshig med par 'gyur te / de'i tshe don (2)
dam pa'i bden pa kho na la gnas pa'i phyir ro / gshan yañ <103a1> ji ltar dug

¹⁰⁹ P D C N; 'gyu :G.

¹¹⁰ D C N; pa :P G.

¹¹¹ P G omit.

¹¹² ? Vajramañḍalālamkāra nāma mahāyogātanta. 東北目録にはなし。

¹¹³ D omits.

¹¹⁴ D C N; 'us :P, gus :G.

¹¹⁵ D C N G; pas :P.

¹¹⁶ P D C N; gsuñ :G.

¹¹⁷ P D N G; ni :C.

¹¹⁸ D C N G; ñid :P.

¹¹⁹ P D N G; 'i :C.

sñags *kyis*¹²⁰ rims mi 'phel ba shes bya ba thos pa tsam dañ [4] gzuñ ba {6} *tsam*¹²¹ dañ / de śes pa la dug mi gnod par (7) śes pa tsam gyis ni dug chen po rnams *shi*¹²² bar nus pa ma yin gyi [3] yoñs su bsgrubs pa'i skyes bus shi bar bycd *do*¹²³ / de bshin du de kho <2> na'i rnam par dag pa [5] thos pa dañ / der 'gyur ba'i {138b1} lam ston pa gzuñ ba dañ / rnam par dag pa dañ ldan pa rnams 'chiñ bar mi 'gyur / śes pa tsam gyis (112a1) 'dod chags la sogs pas mi [4] gnod par 'gyur ba ni ma yin no [6] shes bya ba'o / śin tu spros pas chog go //

rañ <3> gi brjod {2} par bya ba ñes par gzuñ ste / rnal 'byor spyod pa dañ / dbu ma pa'i dbye bas zab pa tsam dañ ldan pa'i theg pa ni rnam pa gñis yin la / (2) rnal 'byor [5] spyod [7] pa rnams kyañ / śes pa rnam pa dañ bcas pa dañ / rnam pa med pa'i byc {3} drag gis rnam pa gñis so¹²⁴ / <4> de bshin du dbu ma pa yañ kun rdzob śes *pa'i*¹²⁵ rnam par smra ba dañ / de bag chags su smra ba'i byc drag [8] gis mām pa gñis so / [6] da ni de dag gi 'dod pa'i rañ (3) bshin brjod de /

śes pa rnam pa dañ bcas pa {4} rnams ni sems rañ rig pa skad *cig*¹²⁶ ma'i bdag ñid mi rtag pa rgyun <5> ma chad par 'byuñ ba 'di ñid *kyi*¹²⁷ [114b1] phyi rol lta bur rnam par gnas pa'i don *ñams*¹²⁸ su myoñ ba [7] yin *gyis*¹²⁹ 'di na bdag dañ skyes bu la sogs pa'i 'dzin pa po gshan ni 'ga' (4) yañ {5} med la / phyi rol na dum bur gyur pa ltar gnas pa'i don rnams [2] ni *rañ*¹³⁰ gi rnam par śes pa ñid *kyi* <6> rnam pa de ltar nam mkha' la brten nas snañ ba 'byuñ gi / [114a1] gshan dbañ *phyug* gis *phyuñ* ba la sogs pa'i don gzuñ bar bya ba ni 'ga' {6} yañ med pa'o

¹²⁰ C; *kyi* :P D N G.

¹²¹ P N G; om. :D C.

¹²² P C N G; sha:D.

¹²³ P D N G; de :C.

¹²⁴ *sākāravijñānavādī* [字井] p.4,20 *nirākāravādiyogācāras* [字井] p.5,5 etc..

¹²⁵ P D N G; pa'a :C.

¹²⁶ P C N G; rig :D.

¹²⁷ C; *kyis* :P D N G.

¹²⁸ P D C N; ñam :G.

¹²⁹ C; *gyi* :P D N G.

¹³⁰ D C N; nañ :P G.

// thams cad [3] rañ gi rnam par (5) ścs pa'i bdag ñid kho na bas gañ la yañ *rjes*¹³¹ su chags pa dañ khoñ khro ba la sogs pa'i <7> skabs¹³² mi [2] 'byed par tshogs *yoñs*¹³³ su rdzogs par byas nas / sems de ñid *rnam*¹³⁴ par [4] dag pa'i {139a1} ye ścs tha mal pa'i mñon par shen pa dañ bral ba'i bdag ñid skad cig ma *rjes*¹³⁵ su (6) 'brel par 'byuñ bar gnas *gyur pa*¹³⁶ ni 'bras bu sañs rgyas shes rtog [3] pa'o //

ścs pa <103b1> rnam pa med par smra ba [5] nmams ni¹³⁷ sems {2} rañ rig pa rgyun 'brel par 'jug pa skad cig ma'i bdag ñid rnam pa dañ bral ba¹³⁸ 'ga' yañ rig par mi byed pa de dag gcig dañ tha dad las grol (7) ba'i bag chags nmams rab tu dag ciñ [6] [4] rnam pa thams cad dañ bral ba rañ rig <2> pa'i {3} bdag ñid *kyi*¹³⁹ *bem*¹⁴⁰ po ma yin pa'i ye śes¹⁴¹ su gnas yoñs su gyur pa 'di ni 'bras bu yañ dag par rdzogs pa'i sañs rgyas su rnam par dpyod par byed do //

dbu [7] ma pa kun rdzob ścs (102b1) pa'i rnam par [5] smra ba nmams¹⁴² ni don dam *par*¹⁴³ rigs {4} pa'i tshogs kyis sems dañ <3> ye ścs dag yod pa ma yin par smra¹⁴⁴ la / kun rdzob tu 'di ltar rnam par *bshag*¹⁴⁵ pa thams cad sems dañ yid

¹³¹ P D C N; rje :G.

¹³² *anunaya-pratīgha-mānāvidyā-dṛṣṭi-parāmarśa-vicikitsēryā-mātsarya(saṃyojana)* AKBh p.309,2f.

¹³³ P D C N; yoñ :G.

¹³⁴ C N; gnas :P D G.

¹³⁵ P D C; rje :N G.

¹³⁶ D C N G; *gyur pa* pa :P

¹³⁷ [密教 1] p.46,8ff. *etena bāhyākārāṇaṃ cittamātratvāt grāhakaśūnyatayā grāhyagrāhakarāhitam paramārthasat samvinmātram vijñānam eva tiṣṭhate . -- nirākāravādināṃ maulam jñānam sādhyam .*

¹³⁸ [Tucci] p.766,31 --*svam ākāram asattayāiva paricchinati.*

¹³⁹ D C; kyis :P N G.

¹⁴⁰ correct bems :P D C N G.

¹⁴¹ P D C N; śc :G.

¹⁴² MAU 263a8f. [海野9] p.16, gañ yañ dbu ma pa kha cig na re 'jig rten la grags pa ni kun rdzob yin te / phyi rol gyi don yañ 'jig rten la grags pas / sems dañ sems las byuñ ba bshin du de yañ kun rdzob tu yod pa yin no / etc.

¹⁴³ P N G; pa'i :D C.

¹⁴⁴ LKh 6a3f. [上111] p.33,p41 don dam par ni sems de yañ gcig dañ du ma'i ño bo ñid dañ bral

[8] kyi rnam pa yul du gnas pa kho nar rtog go¹⁴⁶ //

de bshin du kun rdzob bag chags su [6] smra (2) ba rnams {5} kyi 'dod ba ni don dam pa'i bden pa sna ma lta bu las kun <4> rdzob tu rnam par *bshag*¹⁴⁷ pa rnams ni bag chags rnams kho na [115a1] yin gyi / sems ni rnam pa dañ / 'gro ba'i bdag ñid du snañ ba ma yin no shes par ro / 'di gñi gas rten ciñ {6} 'brel (7) par 'byuñ ba'i bdag ñid 'dod (3) pa¹⁴⁸ dañ / sems dañ rañ rig pa [2] 'gog rigs pa <5> sgrub pa ni mthun no¹⁴⁹ //

kha cig na re 'di gñis kyis lta ba gshan *sel*¹⁵⁰ ba *na*¹⁵¹ rim bshin du / yod dañ med dañ yod med dañ / yod med gñi {139b1} ga min pa ste shes *bya ba*¹⁵² [114b1] dañ / rtag dañ mi rtag [3] rtag mi rtag / rtag dañ mi rtag gñi ga (4) min shes pas¹⁵³ go¹⁵⁴ rims bshin du mu <6> bshi rnam par rtog pa mi 'dra'o shes zer ro¹⁵⁵ // zab ciñ rgya che ba *dan*¹⁵⁶ ldan pa'i theg pa ni bya ba dañ / spyod pa dañ / {2}

ba'i gtan tshigs kyis yod par myi 'grub ste // .

¹⁴⁵ P D N G; gshag :C.

¹⁴⁶ LKh 5b4f. [上山1] p.33,p41 de la 'byor spyod pa'i dbu ma'i lugs ni / kun rdzob du rnam par šes pa tsam du smra ba dañ mthun te / rnam par šes pas yul šes pa yañ / yul ñid rnam par šes pa'i rañ bshin yin bas / 'brel pa yod pa'i phyir // .

¹⁴⁷ P D N G; gshag :C.

¹⁴⁸ LKh 5b3 [上山1] p.32, p40f., spyir dños por nams rten ciñ 'brel par 'byuñ ba yin bas / (般若經の引用) — dbu ma gñi ga yañ de la brten te / .

¹⁴⁹ LKh [上山1] p.33,p41 mdo sde dbu ma pa'i lugs ni / — / kun rdzob du ni rgyu rkyen las byuñ bas // sgyu ma tsam du yod la // don dam par ni bdag dañ / gshan gñi ga dañ rgyu myed pa las skyer myi ruñ shes gtan tshigs rnam pa bshis dños po rnams kyis ba myed de // .

¹⁵⁰ D C N G; sal :P.

¹⁵¹ P D C N; ni :G.

¹⁵² P D; pa :C N G.

¹⁵³ Cf. [字非] p.6,14. [海野5] p.445.

¹⁵⁴ D C N G; kho :P.

¹⁵⁵ Cf. na mataṃ śāśvataṃ viśvaṃ na cocchedisamihitam /

śāśvatocchedino yugamāṃ nānubhayaṃ vinobhayaṃ // 27 // TR [字非] p.6,23f., [海野5] p.445

¹⁵⁶ D C N G; dag :P.

rnal 'byor dañ [4] rnal 'byor chen po dañ / (2) rnal 'byor bla na med pa shes bya
 bas nam pa ltar 'gyur¹⁵⁷ ro / 'dir 'di dag gi rañ gi ño bo (5) ni nam par gsal bar
 <7> bla ma nam kho na las śes par nus kyi / gshuñ gi tshig nam [5] par sbyar
 bas ma {3} yin pa dañ / rigs¹⁵⁸ pa nam ni de kho na la 'jug [3] pa¹⁵⁹ la sogs
 pa'i gshuñ nam¹⁶⁰ su yañ nam par gtan la phab pas / 'dir bdag gis gsal bar dbcy
 bar mi bya bar bshag go / [6] (6) 'di ni <104a1> zab ciñ rgya che ba'i theg pa'i
 nam {4} par bshag¹⁶¹ pa'o //

gal te theg pa gsum kho na yin na theg pa gcig tu [4] nam par bśad pa de ji
 ltar 'gyur / 'di ni ñes pa med de 'bras bu la dañ / rgyu la brten pa'i [7] phyr te /
 theg pa thams cad ñes par ñe ba dañ {5} riñ ba <2> rdzogs pa'i sañs (7) rgyas su
 'gyur bas 'bras bu la brten pa bśad pa ste / de bas na mtshan yañ [5] dag par
 brjod pa¹⁶² las /

theg pa gsum gyi ñes 'byuñ la
 [8] theg pa gcig gi 'bras bur gnas¹⁶³

¹⁵⁷ P D C N; 'gyu :G.

¹⁵⁸ P C N ; regs :D, rags :G.

¹⁵⁹ この書名のみによって考察するならば、Tattvātāra 等の還元梵名を想定し得る。実際北京版チベット大蔵経No.5292には “de kho na la 'jug pa (梵名 Tattvātāra, 作者 Śrīgupta)” とする書物が見られるが、しかしここではこの TV に関連するような記述は見られない。それに反して北京版チベット大蔵経No.4532に “de kho na ñid la 'jug pa shes bya ba bde bar gścgs pa'i bka' ma las pa mdr bsdus te bśad pa'i rab tu byed pa (梵名 Tattvātārākhyā-sakala-sugata-vacas-tātparya-vyākhyā-prakarāṇa, 作者 Śrī Jñānakīrti: Dpal ye śes grags pa)” という論書があり、内容的にも近い記述を見出し得る。例えばこの箇所を甚深で広大な乗の説明であると考えれば、45a6に zab ciñ rgya che ba'i tshul las mkhas pa の記述が見出し得るし、ヨーガの種類の説明であるとするればTV同様の理解である 62a3 rnal 'byor pa ni nam lñar 'dod という記述もある。またこの書は当時ある程度読まれていたようであって、Atiśa の BMPP 北京版 284b4に -- slob dpon dpal ye śes grags pas mdzad pa'i de kho na ñid la 'jug pa'i bstan bcos chen por -- とあり、これによって de kho na ñid la 'jug pa (TV では de kho na la 'jug pa と表示されているが)のみでこの書物を指し示すことの例証ともなっている。

¹⁶⁰ P D C; nam :N G.

¹⁶¹ P D N G; gshag :C.

¹⁶² Mañśrīnāmasāṅgīti ([波羅密] 参照)。

¹⁶³ (nānāyānanayopāyajagadarthavibhāvakah /)

yāntrīyaniryāta ekayānaphale sthitiḥ /135/ [Raghu] p.65,3f.であり、この箇所は
 (種種乗物方便理 利益去來皆了解)

shes gzuñs {6} pa ñid theg pa thams cad 'bras bu yañ dag par.rdzogs <3> pa'i sags
 rgyas su (102a1) 'gyur bar dgoñs la / bcom ldan 'das 'jam¹⁶⁴ dpal {6} yañ gdul
 bya'i dbañ [115b1] las theg pa gsum¹⁶⁵ la shon ciñ chos kyi sku las kyañ ma
 {140a1} g-yos pa'o shes bstod pa¹⁶⁶ brjod pa'o / rgyud las kyañ
 theg pa thams cad ni bdag dañ gshan la spoñ shiñ /
 <4> 'bras bu (2) sañs rgyas ñid skye¹⁶⁷ pa dañ /
 chos kyi [2] dbyiñs {7} la¹⁶⁸ tha dad pa med pa na¹⁶⁹
 ste / {2} don 'di la dgoñs nas / theg pa gcig ciñ tshul yañ gcig yin te¹⁷⁰ shes bya
 ba la sogs pa rgya cher gsuñs so / gal te 'ga' shig theg pa bsam gyis mi khyad par
 [3] bsgrub pa bcom ldan 'das kyi <5> bka' {3} lañ (3) kar gśegs [115a1] pa¹⁷¹ la
 sogs pa'i mdo las śes so she na / 'dir /
 ji srid sems ni 'jug gi bar /

決定出於三乘者 住在於彼一乘果 (大正 卷20 p.829c 『妙法蓮華經』)

と漢訳される。

¹⁶⁴ D C N G; 'jom :P.

¹⁶⁵ P G; inserted char : C D .

¹⁶⁶ この stava は断定的なことは言えないが、次に出されるタントラが引用している Nāgārjuna の stava に対する Amṛtākara の注に 'dharmadhātor acalitamānasattvād vākkāyanirdeśatas trayam .(『酒井』 p.26) とあり、この stava の変形が註釈の引用の可能性が全くないわけではないことを述べておく。

¹⁶⁷ P D C; skyed :G.

¹⁶⁸ N G; las :P D C

¹⁶⁹ この最後の節は Nāgārjuna の dharmadhātor asaṃbhedād (Niraupamyastava 21ab, [酒井] p.15) かこれの変形である。またこの部分は Abhisamayālaṅkāra にも引用されている([Ruegg1] p.306)。更に TR においても Nāgārjuna の言葉 (Nāgārjunapāda) として引用されている([宇井] p.8,15 TR k39a)。TR における Tib. 訳は chos kyi dbyiñs la dbyer med phyir // [枕山、御牧] p.15,9 とある。前半の部分を含めたタントラについては不明。

¹⁷⁰ saddharmapuṇḍarīke 'py uktam--

ckam tu yānaṃ hi nayaś ca eka-- (Saddharmapuṇḍarīkasūtra 2-69, II.kern and B.Nanjio本 p.48) [宇井] p.8,11f.。

鳩摩羅什訳『妙法蓮華經』には、

皆説一乘道 (大正大藏經卷9 p.8b)

と訳される。

¹⁷¹ LS p.307,7 (dhyānaṃ yānālayapṛāptir acintyaphalagocaram //) のことか。

theg pa dag la thug pa med¹⁷²

ciñ bya ba 'di ni theg pa gsum rnam [4] par *bshag*¹⁷³ pa shon pa'i theg pa pa rnam
{4} ñid kha cig rten ciñ 'brel par [2] 'byuñ ba mñon du byed pa dañ / <6> la la
mi sdug pa (4) sgom pa dañ / la la zad bar gyi skye mched sgom pa'i bar gyis
shugs pa bsam gyis mi [5] khyab pa la *gzigs*¹⁷⁴ pa yin gyi rnam par bshag {5} pa
gsum gyis *bsdus*¹⁷⁵ pa'i theg pa gshan ni mi [3] 'byuñ ste / de dag las gshan pa'i
lta ba ni ñes par phyi rol mu stegs par <7> 'gyur ba'i phyir ro /

de ltar (5) theg [6] pa gsum rnam gsal bkod pas /

'gro rnam {6} gus bcas thegs gsum myur shon nas /

srid mtsho¹⁷⁶ las rgal bde ba chen po'i [4] bdag /

stug po bkod pa ñid du 'gyur bar śog //

theg pa gsum [7] rnam par bshag pa shes bya ba / slob dpon <104b1> mkhas pa
chen po rin {104b1} chen 'byuñ gnas (6) shi ba'i shal śna nas mdzad pa rdzogs so /
rgya gar gyi mkhan po [5] chen po kri śna ba dañ / shu chen gyi lo *tsā*¹⁷⁷ ba
dge sloñ [8] chos kyi śes rab kyis bsgyur ciñ *shus te*¹⁷⁸ gtan la *phab*¹⁷⁹ pa'o //

¹⁷² yānānām nāti vai niṣṭhā yāvac cittam pravartate / [字非] p.8,27 TV k44ab. この後 parāvṛtte tu
vai citte na yānam nāpi yāyinaḥ // と続く。

¹⁷³ P D N G; gshag :C.

¹⁷⁴ P C N G; gśegs :D.

¹⁷⁵ D C; ma bsdus :P N G.

¹⁷⁶ D C G; mtshe :P.

¹⁷⁷ C; tsa :P D N G.

¹⁷⁸ D C; om. :P N G.

¹⁷⁹ P C N G; 'bab :D.

三 乗 建 立

ラトナーカラシャーントンティ

[110b8] “三乗建立”を Ratnākaraśānti 師が作り定められた。サンスクリット語で Triyānavyavasthāna といい、チベット語で三乗建立という。

[111a1]一切の仏 (buddha) と菩薩 (bodhisattva) に帰命す。

[111a1]¹⁸⁰ “三乗という乗り物を、布施の御手が荘厳され、自らの血と肉への執着を離れる者になることを論説され¹⁸¹、三乗を宣説された方、まさしくシャーキャ [ムニ] 王に帰命しつつ、師¹⁸²の多数の言葉と文章を考察する為に、三乗を建立しよう”。

[111a3]¹⁸³ “諸乗は三つのみと建立されると考察されるのである”¹⁸⁴。[即ちそれは] [1] 声聞を有した乗 (śrāvakiya-yāna) と、[2] 独覚の乗 (pratyekabuddha-yāna) と、[3] 甚深で広大である乗 (*gāmbhīryāudārika-yāna) とである¹⁸⁵。

¹⁸⁰ *yena tdāna-pāṇyā riyānam eva vāhanam alamkṛtam , (yad) sva-māmsa-rudhira-dveṣa- vigama-gamana-vivṛttim tasmai triyāna-samvāda-śākya-indrāya eva namaskṛtya guros citra-vacana-vākyam draṣṭum triyānam sthāpayiṣyate . (ここでの metre は考慮せず)

¹⁸¹ Cf. [酒井] p.14 śauṣīryaṇi nāstī te kāye māmsāsthirudhiraṇ na ca /.

¹⁸² 後で示される如く (112a3) 、特定できる師を示す場合には slob dpon の訳語が与えられるが、ここでは bla ma とあるので、特定の先師を指すのではなく、一般的な意味として使用されていると考える。

¹⁸³ *yānāni trividham eva vyavasthitāṇi dṛṣṭāni .

¹⁸⁴ Cf. [密教3] p299,5 prajñā bhavaḥ samaś cāsau trikāyaṃ tu triyānakam / .

¹⁸⁵ Cf. MSA I (Mahāyānasiddhyādhikāra) 11c audāryād api gāmbhīryād aviruddhaiva dharmatā , MSA 1,13ab audāryād api gāmbhīryāt paripāko 'vikalpanā. また MS4-2-1ed [長尾3] p.110 gambhīrodāradeśanā .

また Nāgārjuna の Acintyastava ([Lindtner] p.158)に śūnyatādharmagambhīrā dharmabherī parāhatā. とあるのを見出し得る。しかし一般的にAAAに龍樹の一乗説、無著の三乗説であることが知られている ([長尾1] [斉藤] [生井] etc.) 。

更に PVSV の第1偈ab [PVSV p.1 ,2] vidhūtakalpanājālagambhīrodāramūrtaye. のうち「甚深で広大の

[111a3]そのうち [1] 声聞を有した乗は二種類である¹⁸⁶。[即ち] [1-1] ヴァイパーシカ (Vaibhāṣika) と [1-2] 経量部 (Sautrāntika) とである。

[111a4]更に [1-1] ヴァイパーシカは [1-1-1] カシュミールのもとの、
[1-1-2] 中央インド¹⁸⁷のものがある。今 [カシュミールのもの] 固有の宗議 (*svasiddhānta) を少し述べよう。(1) ¹⁸⁸ 感官と対象から生起する知は、形相がない*。[また] (2) ¹⁸⁹ 感官のすべての対象が、球態で部分のない極微 (paramāṇu) という本性 [をもっている] と捉えている*。[また] (3) ¹⁹⁰ 一切の

身体を有する方]の解釈で、仏の三身との関連があることが PVT(Śa) や PVSVT、PVV に示されていることは [Mokerjee, Nagasaki] p.4, [Hayes, Gillon] p.13f., [稲見] p.70等で指摘されている。しかしこの箇所では、mahāyāna という言葉を PVT(Śa) や PVSVT は使用しているが、PVV は使用していない。PVT(Śan) では zab pas ni gshan śes par bya rmed pa thams cad mkhyen pa ñid la sogs pa'i yon tan dpag tu med pa'i rten ñid du brjod do(3b7f.)、また rgya che bas ni gshan dañ tshuñs pa med pas blan med pa ñid brjod do (4a2) としている。

更に、gāmbhīrodāra ekaiko dānādicittakṣaṇaḥ prajñāpāramitēty ucyate . . . gambhīrodārasya samudrasya' . . . Sār p.169,26ff. また NTP10a4 では byañ chub sems dpa' rnam ni zab pa dañ rgya che ba'i bsam pa can yin pa'i phyir rnam pa thams cad dgos pa yin pas na / 'phags pa'i bden pa bshi ston par mdzad ba yañ dgos pa yin no / 又 [14b3] de ni dmigs med ñid thob pas / zab cin rgya che ñid du 'gro / とある。

¹⁸⁶ Cf. Sār p.77,27ff. śrāvakās tu svaduḥkhakṣayamātrāṣiṇaḥ saṃsāraṃ parikalpya tenāyantam udvīgnā parikalpya tasmīn atīvōtkañḍitā laghu laghv eva parinirvānti .

¹⁸⁷ 神戸学院大学の中谷英明教授が早稲田大学に「スバシ写本」についての講演に来られた時、Vaibhāṣika に二系統あったという興味深いお話を伺ったがその折り、基本的な Vaibhāṣika の流れにさえ不明であった筆者の「中央のヴァイパーシカの中央とはどこだと思われますか」という質問に「中央というならば、Mathurā 地方であろう」とご丁寧にご教示頂きました。ここにお礼申し上げます。

ここで注意されなくてはならないのは、Advayavajra が TR で示した二系統の Vaibhāṣika 則ちカシュミールのもとの西方のものという表現が、どうして Ratnākaraśānti の時代では「西方」が「中央」になったのかを考察する必要がある。[Sarla] p.18によると、Vaibhāṣika 則ち Sarvāstivādin は最初 Mathura 地方で起こったが、その後西北部へ流れていったグループと Kashmir 地方で起こった MūlaSarvāstivādin との二系統があるとされ、第一のグループの移動の過程によって名称の異同が生じたのであろう。このことは中谷教授の講演の内容とも一致している。

¹⁸⁸ * indriyārthābhyām utpannam cittam anākāram .

¹⁸⁹ * indriyāśeṣārthāni piṇḍa-sāmyasthita-niravayavi-paramāṇu-bhāvāni jñātāni .

¹⁹⁰ * sarva-samskṛtam anityam anātmā īśyate .

有為は、無常で、無我と認めている*。〔一方〕(4) ¹⁹¹虚空と二つの滅¹⁹²と真如を、常住であると認めることによって、考察しているのである。¹⁹³これらの者〔カシュミールのヴァイパーシカ〕は、〔得〕果を、〔煩惱をどの程度断じたかの譬喩として、材木が燃えて出る〕火と〔燃え残りの〕材木のように説いて(ア)無であるもの〔則ち阿羅漢果〕と、(イ)それ〔無〕に基づいた、〔燃え〕残りの蘊〔たる木材〕を有しているという〔阿羅漢果以外〕との両方とにおいて成立させているのである*。〔即ち〕¹⁹⁴それらは完成した一者と、完成されるべきもとに確立している七の聖人を含む四対即ち八種の人を称賛している。即ち預流へ向かう〔預流向〕と預流〔果〕と、もう一來へ向かう〔一來向〕と一來〔果〕と、不還へ向かう〔不還向〕と不還〔果〕と、阿羅漢へ向かう〔阿羅漢向〕と阿羅漢〔果〕と順次に〔示される〕如きである*。

[111b1] [1-1-2] ¹⁹⁵中央〔インド〕のヴァイパーシカ達も、この諸の立場は〔カシュミールのヴァイパーシカと〕同じである。諸々の細かな箇所は、彼らだけが念誦している『阿毘達磨〔俱舍論〕』に広く示している*。

[111b1] [1-2] ¹⁹⁶経量部達は¹⁹⁷、(1)知は形相を必ず有して生じると分別している。〔また〕知にある諸々の形相も、〔形相より〕別のそれ〔形相〕と同じ〔外部対象の〕形相より生じているのであり、¹⁹⁸それ〔知の形相に似た外部の形相〕も

¹⁹¹ * ākāṣam ca nirodhāv ca tathatām nityam itīṣṭāḥ vicāryāḥ .

¹⁹² pratisamkhyānirodha と apratisamkhyānirodha.

¹⁹³ * etc yathāgni-vṛkṣam uktam kāryam abhāvaṃ ca tadpūrvika-śeṣa-skandhavañ cēti dve sādhayanti .

¹⁹⁴ * te siddham ekañ ca sādhye sthitān sapta-Ārya-pudgalān caturyuga-aṣṭa-puruṣān kīrtayante . tathā hi srotāpanna-pratīpannāḥ ca srotāpannāḥ ca . ekāgāmi-pratīpannāḥ ca ekāgāminīn ca . anāgāmi-pratīpannāḥ ca anāgāmiñ ca . arhat-pratīpannāḥ ca arhan itī kramavat .

¹⁹⁵ * madhyadeśa-Vaibhāṣikānām api sthitiḥ eṣām samānam . tair eva paṭhitam Abhidharmam sūksmāḥ vistareṇa darśayati .

¹⁹⁶ * Sautrāntikāḥ cittam sākāreṇāiva utpannam kalpayanti . cittākārā api tad-sārūpyasya anyasya ākārād utpannāḥ , te 'pi paramāṇu-varṇānūrūpeṇa sthity-ātmā eva īṣyante .

¹⁹⁷ 経量部に対する批判は、MAU 261b1ff.参照（〔早島2〕）。

¹⁹⁸ Cf. PPU 165b4ff. rnam par śeṣ pa thams cad rnam pa dañ bcas pa yin te / 'di ltar don gañ dag gis rnam par śeṣ pa'i me loñ la gzugs brñan bshag par gyur pas / rnam par śeṣ pa des de'i gzugs brñan myoñ yañ ñe bar brtags pa byas na / me loñ gi ños la rañ gi gzugs brñan mthoñ ba bshin du de myoñ bar bshag go / de yañ me loñ la phyi rol gyi don mthoñ ba ni śin tu mthun pa ma yin

極微の色と同様に確立した本性 [を有している] と認めているのである²⁰⁰。200→更に (2) これら [経量部達] は、この²⁰¹三時を容認せず²⁰²、 (3) 諸々の無為さえも、石女の子と同様 [全くないものであるもの] として認めているのである²⁰³。

[得] 果とそこにおいて認められたもの (向) と確立されたもの (果) は、以前の [ヴァイパーシカに認めたもの] と同じである²⁰⁴。

[111b3] [2] 「経量部達は、独覚であると分類される」 [と言うならば、答えよう。] これ[経量部]は声聞乗であると確立されるのである。²⁰⁴向とそこに確立した [果] にして [他ならぬ] それら [独覚向と独覚果と] は、感官が [声聞と] 相違している。よって、サイ (khaḍga) の如き歩みや集団や動きや抛り所という点で²⁰⁵、独覚は二種類 [声聞・独覚] のうち抛り所となるのである。これら [独覚達] の内証 (*anugama) は [次の如くである。即ち] 等しく十二支縁起のうち、輪廻に生じることとその否定によって、涅槃に赴くと知られるのである²⁰⁶。206→ここ [十二支縁起] でこれら [独覚達] の間断のない、一つの道を語っているようであるが、得果において、裨益する律儀[のため]の [独覚の] 戒律等は、声聞達と同じくそこ [得果] に生じるのである。また [独覚] 果の本性も寂静であり、声聞達と同じであるものとして、確立されるのである²⁰⁷。207→これら [独覚達] には堅固な戒律によって、

pas cuñ zad 'khrul pa yin la / blo'i mc loñ la snañ ba ni śin tu mthun pa'i phyir cuñ zad kyañ zin tu 'khrul pa ma yin no shes zer te /

¹⁹⁹ Cf. paramāṇusañcārārūpo 'rthah sākārajñānanakāḥ [宇井] p.4,6.

²⁰⁰ * na ca etc etad traikālam abhyupagacchanti . asaṃskṛtā api vandhyāputravat iṣṭāḥ . phalaś ca tatra iṣṭaś ca sthitaś ca pūrvavattvena .

²⁰¹ この指示代名詞を「所謂」と解釈して、これは過去・現在・未来と解釈する。

²⁰² [加藤] p.284ff. 参照。AKBh p.299,21ff. また JSS k24a dus gsum dag kyañ khas mi len / 、また SMVc [白崙1] [白崙3] p.94 k4a dus gsum rjes su 'jug pa med // .

²⁰³ [加藤] p.22, p.297ff.参照。AKBh p.29,3ff. p.92,3ff. p.92,7.

²⁰⁴ * pratipannasya ca tatra sthitasya ca teṣāṃ evēndriya-viśeṣeṇa, khaḍgēva gamana-gaṇa-caryāśrayatayā pratyekabuddhāḥ dvīprakāre āśrayā bhavanti . eṣāṃ anugamaḥ . sāmānyeṇa dvādaśāṅga-pratītya-samutpādāḥ saṃsāre utpannaḥ ca tad-pratiśedheṇa nirvāṇa-gamanam jñātau .

²⁰⁵ 麟角喩独覚(khaḍgaviṣāṇakalpa-)の成立については[桜部] p.48、[藤田] p.422。

²⁰⁶ * atra eṣāṃ avyavacchinna-pradeśika-mārga-vādanam yathā , phalaprāpte tu hita-saṃvara-śīlādīḥ śrāvakā-samam tatrōtpadyate . kāryātmā śāntitvam api śrāvakā-samāneṇa sthitam .

²⁰⁷ * eṣāṃ niyameṇa śīleṇa saṃvare sthita utpannaḥ , pratītya-samutpādāna-kalpi-pratyayaś ca utpannaḥ

律儀を確立することが生じるし、縁起を知るであろう縁が生じるのである。例えば長者 (śreṣṭhin) が正しく言う如きである²⁰⁸。何故ならば、百劫の間に、それ [律儀] と結び付いた業 (karma) がそれら [独覚達] によって成長されるべきものであるからである²⁰⁹。諸々の縁起がどうして修習される (*bhāvanā, bhāvyā) のかは、ここでは述べない。多数の文章があると喜ばれない (arati) のであり、また [それは既に] 諸の経に鮮明に表されているからである。以上で独覚乗が確定された。

[112a2] [3] 甚深で広大な乗は二種類である。[3-1] 甚深だけのもの²⁰⁹と [3-2] 甚深で広大の両者であるをもの²¹⁰とである。²¹¹ これらのみが大乗 (mahāyāna)²¹²であると [既に Advayavajra 師によって] 語られている²¹³。分類は

, yathā śreṣṭhī satyam uktavān . kalpa-śātāntare hi tad-sambaddha-karmasya tair samcayāt .

²⁰⁸ Suttanipātaに、長者が辟支佛に施食供養しつつもそれを後悔したため、果報を受けるという話があると報告されている ([1111] p.102)。

²⁰⁹ Cf. gambhīranaya-- [字井] p.7,25. また Sār p.117,7ff. ' gambhīro bhāvanāmārgaḥ ' ity uktam . tasya ' gāmbhīryam ' gambhīrabhāvaḥ . yataḥ sa gambhīro bhavati tac ca śūnyatānimitādikam . mārgasya gambhīryam ālambanagāmbhīryād iti bhāvaḥ . また gambhīra については Sār p.122f. 参照。

²¹⁰ Cf. Sār p.89,14ff. "te udārādhimuktikā bhaviṣyanti . rūpaśabdagandharasasparśadharmeṣu ta udārāṇi dānāni datvā udārāṇi kuśalamālāny abhisamṣkrtya udāraṃ vipākaṃ parigrhya sattvānām arthāya vipākād vipākaṃ parigrhiṣyanti" iti udārāphalaparigrahagaṇaḥ .

²¹¹ * etau eva mahāyānau uktau .

²¹² Cf. ŚM 140a5ff. theg pa chen po'i mtshan ñid gsuñs pa / 'chad par 'gyur ba de la ci'i phyir theg pa chen po shes bya she na / gañ gi phyir 'jig rten zil gyis mnan nas ñes par 'byuñ bar 'gyur pa'i phyir ro / ci'i phyir theg pa chen po shes bya she na / gañ gi phyir nam kha' dañ mñam pa dañ / sems can thams cad la go 'byed pa'i phyir dañ / 'gro ba dañ 'oñ ba dañ gnas pa dañ bral ba'i phyir dañ / dus gsum mñam pa ñid kyi phyir ro / de la 'dir 'jig rten gyi kham s gsum pa'o / de las śin tu 'das pa'i phyir mchog go / de yañ gañ zag dgu po dag gi chos so / dgu gañ she na / rigs kyis dañ / brgyad pa dañ / rgyun tu shug pa dañ / lan cig phyir 'oñ ba dañ / phyir mi 'oñ ba dañ / dgra bcom pa dañ / rañ sañs rgyas dañ / byañ chub sems dpa' dañ sañs rgyas so / .

また PPU 155b6f., ñan thos rnam theg pa chen po la kha phyir bltas pa ni mñes pa dañ bral pa'o / de spañs nas byañ chub sems dpa' nams theg pa chen pos gzuñ bar bya ba'i phyir thos rnam drañ bar bya ba'i phyir theg pa mchog bśad pa ste / theg pa mchog bstan pa'o / .

また PPU 163b2ff. theg pa chen po'i don mдор bsduṣ pa ni 'di yin te / 'phags pa lañ kar gśegs pa las ji skad du

chos lña dañ ni rañ bshin dañ /

rnam par śes pa brgyad ñid dañ /

二種類のみであると以前の師匠 [則ち Advayavajra] によって、波羅密理趣 (pāramitānaya) と、真言理趣 (mantranaya) との乗であるとも確立しているのである²¹³。

[112a3] 「²¹⁵ もし一方が甚深のみのものであり、同様に他方が甚深で広大の両者であるものとするならば、その場合諸乗は四つとなるではないか。どうして三乗と確定されるのか」と言うならば²¹⁶、こ [の自説] の場合過失 (doṣa) はないのである。²¹⁶ 何故ならば、二諦 [の立場] を確立することによって、自己 [の利益] と他者の利益を、円満することが成立する場合、[勝義の立場では、甚深のみを有したものと、甚深と広大の両者を有したものと] 相違はないからである。

[112a5] 「²¹⁷ そう [二諦の確立によって両者の区別がないとする] ならば、何故ある甚深のみのものと甚深・広大の両者であるものの相違が生じるのか [、生じるはずはない]。もしそうでないなら [即ち二諦の確立によって両者の相違があるとする] ならば、必ずこれら [両者の区別した立場を確立する] 二諦の方に [こそ] 相違があると云わなければならないのである²¹⁸」 [というならば、答えよう]。次のように善く説かれている (subhāṣitam)。

bdag med gñis kyi dños pos ni /

theg pa chen po ma lus bsdus

shes gsuñs so /,

また PPU 184a3f. theg pa chen po la shes bya ba la 'dis 'gro bas na theg pa yin shiñ / ñan thos dan rañ sañs rgyas kyi theg pa las khyad par du gyur pas chen po ste / byañ chub sems dpa' rñams kyi zag pa med pa'i lam mo /.

²¹³ * bheda-dvidividhāv eva pūrvācāryeṇa pāramitānaya-mantranayau mahāyānāv ity api sthitam .

²¹⁴ この付近 [海野5] p.113に和訳あり。

²¹⁵ * nanu yadī eke gāmbhīryam eva evañ ca eke gāmbhīryaudārikobhayavān tadā yānāḥ catvāro bhavēyur . katham triyānam vyavasthīyam iti cct ,

²¹⁶ これ以下 [高山] p.67に意訳あり。* satya-dvaya-sthitāṇeṇa sva-parārtha-samāpatti-siddhau bhēdasyābhāvāt .

²¹⁷ * tathā satī kasmād gāmbhīrya-mātram ca gāmbhīryaudārya-ubhayavāñ ca viśeṣa utpadyate . anyathā etayoh satyadvayor eva viśeṣa iti vaktavyam .

²¹⁸ Cf. Sār p.160,12ff. yā samvṛtīḥ sa eva paramārthaḥ . yata ckāiva tayos tathatā . api tu skandheṣu bhāvasamjñinām tatparihārārtham abhāva iti samvṛtyā nirdīśyate 'bhāvasamjñinām bhāva iti . paramārthato na bhāva upalabhyate nāpy abhāva iti satyadvaye vipratipattīḥ .

[112a6] 「²¹⁹勝義の眞実においては²²⁰、如何なる時も、如何なる区別も生じることがないのである。世俗 [の眞実] によって、甚深なものと [甚深で] 広大なものとなるであろう」 [と] 。

[112a7] (1) 「²²¹何故世俗の眞実においては [甚深なものと、甚深で広大であるものとの] 相違があるのに、勝義の眞実においてそれ [相違] を知覚しないのか」。

[また] (2) ²²²世俗のみによって²²³ [それは] どうして [甚深かつ] 広大ともなるのか」 [という問に対して以下のように答えよう]。

[112a7]この場合 (1) 勝義の眞実を、中観派の者達は [次のように] 確定している。 [即ち]

[勝義の眞実とは、]有であるのと、無であるのと、有無の両者と、有無両者

²¹⁹ * na paramārthasatyatve kadācit kaścīd bheda utpannah , saṃvṛttitvena gambhīrodāram bhavet .

²²⁰ Cf. PPU 162b4f. don dam pa'i bden pa gañ she na / 'phag pa mams kyi yul du gyur pa'i don do / ,

また MAU 258a6 yañ don dam pa'i bden pa gañ she na / 'phag pa mams kyi yul du gyur pa'i phyir ro / .

更に PPU 162b6ff. de la don dam pa ni / ston pa ñid ye śes dam pa'i yul yin pa'i phyir ro / thob pa don dam pa ni / mya ñan 'das pa ste / ye śes dam pa'i 'bras bu yin pa'i phyir ro / rtag pa don dam pa ni yañ dag pa'i ye śes ste / 'di la don dam yod pas shes bya ba'i phyir ro / .

また MAU 257b4f. dom dam pa yañ rnam pa gsum ste / dom dam pa ni de bshin 'di do / sgrub pa don dam pa yañ dag pa'i ye śes so / thob par bya ba'i dom dam pa ni mya ñan las 'das pa'o / ji skad du don dañ / thob dañ sgrub pa dañ / dom dam rnam pa gsum du 'dod / ecs bśad pa lta bu'o / .

²²¹ * saṃvṛti-satyē bhedo 'sti , kasmān na paramārtha-satyē sa upalabhyate .

²²² * katham saṃvṛti-mātreṇa udāram api bhavet .

²²³ Cf. PPU 162b5f. brtags pa'i kun rdzob ni kun brtags pa'i ño bo ñid de tha sñad tsam yin pa'i phyir ro / rtag pa'i kun rdzob ni gshan gyi dbaṅ gi ño bo ñid de log pa'i śes pa yin pa'i phyir ro / gsal bar byed pa'i kun rdzob ni / yoñs su grub pa'i ño bo ñid de / de ni mtshan mar gyur pa de las yoñs su grub pa'i ño bo ñid ston pa'i phyir ro / ,

また MAU 257b5ff. kun rdzob kyañ rnam pa gsum ste / brtags pa'i kun rdzob ni chos thams cad kun brtags pa'i rañ bshin no / śes pa'i kun rdzob ni log pa'i śes pa thams cad do / brjod pa'i kun rdzob ni sgra dañ don dam pa ston par byed pa'o / ji skad tu brtags pa dañ mi śes pa dañ / de bshin brjod pa rgya che yin / shes bśad pa lta bu 'o / ,

また MAU 258a6f. kun rdzob kyi bden pa gañ she na / byis pa mams kyi yul du gyur pa'i phyir ro / .

のないものという四句 (catuḥkoṭi)²²⁴から離れているのである。[則ちそれは] 戲論の特相を滅する諸のもの[則ち四句]から越えたものである(*prapañca-nimittāstamgaumyebhya adhika eva)

[と]。²²⁵ [もし] こ [の四句] の理趣から [四句を越えることによって得られる本来の勝義の真実から] 別の勝義の真実を確定するならば、その場合、「確かに有る」等の四句を働かせるであろう [が別の勝義の真実などはありえない]。[しかし四句がないからといって] およそ四句さえない上に、中観派達が確立する [所の、勝義の真実は言うまでもなく] 真実でさえないもの (X)、そのような (X) 如何なるものも [四句を離れることによって] 得ることはないだろう²²⁶。²²⁷ [更に] もし四句からある者が勝義を分別するとするならば、その場合、ヨーガを行う者のみによる僅かな努力が、時間を逆にすることが可能であろう²²⁸ [が、そのようなことはない]。²²⁹ それ故に勝義の真実は、世尊 (bhagavat) と龍樹 (Nāgārjuna) 等によって確立したものの [であり、それ] から相違したものとなっている [四句分別によるような] 第二の勝義の真実はないのである²³⁰。

[112b4] (2) ²³⁰ 世俗のみによって、[その乗は] どうして [甚深かつ] 廣大となろう、ということから次のように言われている。

[112b4] (1) 清浄な所縁 (*viśuddhyālabhāna) と、(2) 一緒にある威力 (*saha-prabhāva) と、(3) 行 (caryā) によって、意を有した者達の乗り物は (*mānasām yānaḥ)、大なる上にも大である (*mahāmahā) と称賛されている。この意味は [次の如しである]。(1) ²³¹ 顕現する諸<所縁>が、<清浄な>神を

²²⁴ 四句そのものについての論理学派内での歴史的展開は [森山] 等を参照のこと。

²²⁵ * asmād nayād anya-paramārtha-satyā-vyavasthāpane tadā niyameṇṣṭyādi-catuhkoṭiṃ pravarttet . catuhkoṭyabhāvaṃ yad Mādhyamikair vyavasthita-satyō 'pi nāsti , tan na kaścid labhet .

²²⁶ 四句を離れることによって中観派が勝義の真実を得るならば、本来四句などない唯識派との区別がなくなってしまうだろう、という議論が [密教4] p.263に出ている。

²²⁷ * yadi kaścid catuhkoṭīnaḥ paramārtha-satyam parikalpate , tadā yogācāryasyāiva alpa-yatnam kālam viparetum śakyet .

²²⁸ 例えば Yogipratyakṣa の特質として、過去や未来の対象の知覚が認められているが(PVBh p.112,7f. p.326,25f.)、時間を逆行させることまでは認められていない。

²²⁹ * tasmān na bhagavat-Nāgārjunādi-vyavasthāt viśeṣo dvitīya-paramārthasatyō asti .

²³⁰ これ以下 [高田] p.68に意訳あり。

²³¹ * yathā pratibhāsālabhānāṃ viśuddha-devātmakatvābhisamayeṇa udārālabhanam .

本性としていると現観することによって、広大な〈所縁〉の如くであり²³²、また
 (2) ²³²三時の勝者達が親近する諸三昧が、意のままの所取であることによって、
 出生して生じる加持 (adhiṣṭhāna、神通) が生起する〈一緒にある〉という広大と²³³
 、(3) ²³³仏陀と十地の諸自在者 (*īśvara)²³⁴が行儀を〈行〉う如くに、清浄に加持
 されたままに、随生した広大な〈行〉とである²³⁵。これら [の広大という特徴]
 は、中観派達からは相違したものとなっているから、それら [中観派達] には、決
 して広大性がないのである²³⁶。それによって、世俗のみによって (*saṃvṛti-mātreṇa)
 、確立される [甚深のみと、甚深で広大であるものとの] 区別がある。

[112b8] 「²³⁶広大はそのような種類 [特性であること] によって、諸乗は諸の仏陀
 [乗] と同じであると説明されるのではないか。そう [諸乗が仏陀と同じ] である
 ならば、勝義の真実のみと他方 [世俗の真実のみ] とは、区別がないのであろう。
 何故ならば、一切は [仏] 果に確立しているのであるから」と言うならば²³⁷、
 [それは] 真実であるけれども²³⁸、しかしながらこの場合の勝義の真実は、無巧用
 (anābhoga) 等 [であること] によって [努力して] 動くことがない如く、これ [勝

²³² * trikāla-jinair āsevanāḥ samādhayas yathā-manasam grāhyānīti viśeṣenotpannam adhiṣṭhānam saha-janaka itī udāram .

²³³ * yathā buddha-daśa-bhūmikeśvarāṇam gaty-artha-caryā , pariśuddhyā yathādhiṣṭhānam anujātoḍāra-caryā .

²³⁴ Cf. ŚM 138b4ff. rgyun tu shugs pa'i 'bras bu la 'jug pa ni bryad pa'i sa'o / mthoñ ba'i sa ni rgyun tu shugs pa'o / lan cig phyir 'oñ ba ni bsrabs pa'i sa'o / phyir mi 'oñ ba ni 'dod chags dañ bral ba'i sa'o / bya ba byas so shes śes pa'i phyir byas pa rtogs pa can ni dgra beom ba ste / de'i sa ni byas brtogs pa can gyis'o / ñan thos kyis ste drug po de ñid do / rañ sañs rgyas kyis ni rañ sañs rgyas kyi'o / byañ chub sems dpa'i sa ni goñ du bstan pa'i byañ chub sems dpa'i sa dgu po ste / sa dgu po de dag las 'das pa'i ye śes gañ gis byañ chub sems dpa' sañs rgyas kyi sar gnas par 'gyur pa de ni byag chub sems dpa'i sa bcu pa yin no / de ni sa'i chogs so / .

²³⁵ * etc Mādhyamikābhyo viśeṣā itī teṣāṃ udāratvam nāsty eva .

²³⁶ * nanūḍārasya tad-ākārair yānāḥ buddhasya samānā itī nyūnam . tathā sati na paramārtha-satyamātra-itarayos bhedo bhavet . sarvasya phale sthitatvāt itī cet ,

²³⁷ * satyam . api tu yad atra paramārthasatyam anābhogādīnā na pravarttate yathā , nāsyā saṃvṛtīḥ . yāvād dhi paramārtha-kalpanā tāvad ābhogavan-paribhāṣā .

²³⁸ Cf. PPU 153b7f ñan thos kyī theg pa'i chos gañ yin pa ñid de bshin ñid du ro gcig pa'i phyir theg pa chen po'i yañ yin te / de bas na theg pa ni gcig ñid do shes dgoñs pa nes par 'grel pa las gsuis pa'i phyir ro / .

また[密教3] p.303 に dvayor(=satyadvaya) advayatā sādhyā とある。

義の真実] にとって世俗はないのである。何故ならば、[世俗の立場から] 勝義を理解する限り、その限り努力を有しつつ解釈している (*paribhāṣā) からである”。

[113a2] 「²³⁹・そう [勝義の理解と世俗とは相違しているの] であるならば、[仏陀は] 中観派達でもあることによって、こ [の中観派] の場合甚深・広大を有するとどうして語るのか」と言うならば”²⁴⁰ [それは] ありえない。²⁴¹何故ならば、中観派達は、広大を欠くことによって、三無数劫の [得] 果に働くのであり、瑜伽行派達も [同様で] ある。同様に声聞と独覚達も、四無数劫にして、自らの最高の果を得るが、最高の乗に乗った者達は、少しの時間で無住処涅槃 (apratīṣṭhāna-nirvāṇa) を得るのである²⁴²。それによって、[中観派達は、広大で甚深である乗と] 大きな相違を有しているのである。

[113a4]²⁴³・そう [世俗で各種生に相違が] あるとしても、この場合勝義の真実とは相違 (矛盾) しないのである。勝義の真実を完成した弥勒菩薩等が無礙の行によって、[兜率天の] 後宮 (外院) での戯れ等を行うことによって、趣が異熟しつつも、自らを完全に束縛することが生じない如く²⁴⁴、こ [の最高] の乗に確立した者達も、[自分を束縛しないので] 非難されるべき方便と般若三昧等、多数の種類を行うことによって、資糧²⁴⁵を完成させるであろう”。²⁴⁶・これ即ち方便の神通は、まさに稀有な

²³⁹ * tathā sati Mādhyamikā 'py iti atra gāmbhīryaudārikam katham uktam .

²⁴⁰ しかし sarvākāravarodāragambhīranijaśūnyatām / [密教3] p.307,9.

²⁴¹ これ以下 [磯田] p.67に和訳あり。* Mādhyamikāḥ udāra-rahitena tri-kalpāsamkhyeya-phale vartante . yogācārā 'py evam . tathā śrāvaka-pratyekabuddhā 'pi catur-kalpāsamkhyeyena sva-parama-phalam upādante . uttara-yānārūdhās tv alpa-kāleṇa apratīṣṭhāna-nirvāṇam labhante .

²⁴² しかし NTP14b6f. de ltar bskal pa graṅs med pa gsum du chos la dmigs pa'i sñiñ rje goms par byas pa yoñs su rdzogs pa la dmigs pa med pa'i sñiñ rje chen po skye bar 'gyur te / 'di ni de'i zab pa dañ rgya che ba yin pas zab pa dañ rgya che ba'i khyad par ro / .

²⁴³ * tathā upāte 'py atra paramārthasatyāt aviśeṣah . paramārthasatya-parisiddha-Maitreya-bodhisattvādīḥ avyāhata-caryeṇa antaḥpra-parivāre vikriḍādi-caryeṇa gatim pacyamānāḥ , ātma-sambaddham nōtpadyante yathā . asmin yāne sthītāpi upāya-prajñā-samāpatty-ādi-kutsita-bahu-prakāra-caryeṇāiva sambhāram parisamāpadanti .

²⁴⁴ [渡辺] p.251によると、兜率天は後世内院と外院に分かれ、内院は弥勒菩薩の説法を聞いて佛道修行をし、外院は天女達と官能的な快樂にふける場所と、区別されるようになったとされる。そしてその典拠の一つとして玄奘の『大唐西域記』卷五(大正卷51, p.896bc) を挙げている。

²⁴⁵ MSA Tattva 章 k6 に、saṃbhṛtya saṃbhāram anantapāram jñānasya puruṣasya ca bodhisattvaḥ. とある。また [松本1] の、敦煌文書内の綱要書にも「福德と智との [二つの] 資糧によって、無上の

ものである²⁴⁷。生類達で、貪著 [心] (*adhyavasāna) を有している者と、そのような増上心 (*abhimāna) を有しているもの達のうち、声聞と独覺乗等に乗った解脱に与らない者達に、愛欲を有する行等を説示することによって、[彼らの] 心は歡喜させられるのである²⁴⁸。[もし彼等が] 順次に資糧²⁴⁹を集めて、[彼らの] 心相續が、金が燃やされる如く [執着を離れる] ならば²⁵⁰、執着 (rāga) を離れる行を完成する次第は、すべての場合戲論を離れることに他ならないと理解するであろう²⁵¹。それ故に乗[の中]のこの最高なものは、乗るべき諸々の最高のすべての生類に、心の放棄をさせるのである²⁵²。それ故に『月の秘密頂巖等のヨーガタントラ』などに [I13b3] 如何なる非享受 (享受してはいけないこと) (*abhokta) もない。如何なるなさざれること (なしてはいけないこと) (*akriyā) もない。一切は、方便・智・心によって、疑いのないもの [則ち了義] (*anāśaṅkā) となっているから、享受されるべきもの (*upabhogya) なのである。

云々と広く言ったのは、義の二種類 [則ち了義と未了義] の力に依存しているのである。[即ち] (1) ²⁵² [およそ広大で甚深な乗より] 別の乗から切り離された諸々の生類 [即ち広大で甚深を有した乗の者達] が、[その中に] 酒飲みが [いたならば酒を見せなくては助からなかったであろうが、酒飲みが] いないことによって、[玩具を見せられた幼童が] 火宅から飛び出る [ことができた] 如く²⁵³、高慢をとりだすのみのために、[未了義を] 語っているのである²⁵⁴。他方 (2) 長い時間、

菩提にいたるまでが成就することになる」(松本氏訳、p.275,14f.) とあることが示されている。

²⁴⁶ * ayaṃ upāya-vikurvaṇa adbhuta eva .

²⁴⁷ * yān jātim sādhyavasānān ca tathā-sābhimāny-antarān śrāvaka-pratyekabuddha-yānādi-vāhita-mokṣābhavyān kāmi-caryādi-darśaneṇa pariśuddhi-cittaṃ yatna-kṛtam .

²⁴⁸ * kramcṇa sambhāraṃ paricitya citta-santānam yathā suvarṇa-dahanam bhavet , (tadā) kāma-virahacaryā-samāpatti-kramam sarvatra prapañca-virahanam eva kalpayeyur .

²⁴⁹ ? Cf. samvareṣu samādhinām paripūrṇo gaṇo bhavet . [Chattopadhaya] p.547,13.

²⁵⁰ この譬喩の出典は特定出来ていない。

²⁵¹ * tena yānottaram idam jāty-aśeṣa-parama-yātavyaḥ manas-apañāḥaṇa .

²⁵² * yeśāṃ jātīnām anya-yānāt vicchinnām yathā madyapābhvencṇa jvāla-grhād utpattivad, darpaṃ netu-mātrāṭam uktam .

²⁵³ 法華經、火宅三車の比喩を使用した説明であると理解して、内容文脈に則して補足語を入れた。

²⁵⁴ * atha yān cira-samāpatti-mārgābhyāsena kāmādy-anapaharaṇān yathā pañka-padma-vata eva āśṛitya uktam .

完成の道を修習することによって²⁵⁵、執着等によって損なわれない [者達で]、泥 [中] にある諸々の蓮華の如きものだけに依存して [了義を] 語っているのである²⁵⁶。そうではなく、[即ち] 卑しい執着等によって、束縛 [の状態] とならないのであるとするならば、一切の生類が解脱の状態に行ってしまう [という矛盾] になろうし、三昧による如何なる滅 [涅槃] も、生じないことになろうし、まさにそれ [卑しい執着等によって、束縛の状態とはならないこと] によって、悪趣も分断されるという矛盾となってしまう²⁵⁷。それ故に、およそ空性に信仰心がある者、その者達も、執着等の結果 [が如何なるものか] を確かに感受すべきなのである²⁵⁸。神のヨーガ (*devatāyoga) についても²⁵⁹ 真実なありのままのと考察 (如実観) が [執着等の結果の考察を] 中断させるならば、執着等をどのように語るべきであろうか [語り得ない]²⁶⁰。それ故に『金剛曼陀羅の莊嚴という大瑜伽のタントラ』に、

多数の形相 (bahv-ākāra) を世俗の真実 (saṃvṛtti-satya) であると、ある場合
確定する

と語られている。

[113b8][勝義の真実では、本来事物には]非事物性 [がある] という説 (*avastutva-pakṣe) があっても、[世俗の真実において] この業の結果 (karmasya phala) 等は、夢の如く (svapnavat) 感受され (anubhavya)、諸々の現量 [知] において (pratyakṣeṣu) 生じる

云々によって、広く²⁶⁰ 「勝義の真実が現前しない中に、世俗の真実を質問することによって確立する」と語っているのである²⁶¹。こ [の頌] の場合「[勝義には非真実であっても、多数の形相は] 世俗としては、非真実ではない」と語ってある者が説明するならば、直接的に [世俗に] 合理が与えられ、[しかも] 二諦を確立するのである²⁶²。

²⁵⁵ Cf. [Tucci] p.766,9f. āryamārgcṇa niṣprapañcena cirabhāvitena --.

²⁵⁶ * anyathā prākṛta-kāmādinā bandhe abhāve sarvajātayas mokṣa-sthānam gaccheyur , samayāt kaścīn nirodho 'pi nōtpādayet , tenāiva āyāyiko 'pi vicchinno prasajyet .

²⁵⁷ * tasmād ye śūnyatām cittābhīśraddhāḥ tair api rāgādi-phalam niyamena anubhavitavyam .

²⁵⁸ * devatā-yogasyāpi satya-yathāvad-darśana-vicchinne , katham rāgādayas vaktavyāḥ .

²⁵⁹ この「神のヨーガ」とは大衆を得るために必要であることが、Muktikāvalī に指摘されていることが知られている ([磯田3] p.19f.) .

²⁶⁰ * paramārtha-satya-sammukhy-abhāvāntare saṃvṛttisatyam praṣṭena sthitam ity ucyate .

²⁶¹ * atra na saṃvṛtīte asatyam asty itī kiñcid-vacane bhāve , sāksāt yuktiḥ deyaṃ , satya-dvayaṅ ca sthitam .

[114a2]この優れて最高の乗 (**prottara-yāna*) は、理趣を確立するならば (**naye sthāne*)、得られるであろう

云々という、諸々のタントラは無言 (*apralāpa*) [則ち意味のない言葉] となってしまうであろう。²⁶²何故ならば、そ [の諸々のタントラ] の場合、最高の真実のみを確立するからである²⁶³。²⁶⁴他方例えば、毒マントラによって [毒による] 伝染病が大きくなると<聞くことのみ>によって、[また]<保持すること>のみによって、またその知を毒が拒斥しないと<認識のみによって>、大きな諸々の毒を鎮めることができるのではなくて、完全な知識を持った人間によって[毒マントラが呪される]から、鎮まるのである²⁶⁴。²⁶⁴同様に、真実という清浄なものを<聞くこと>と、そう[真実という清浄なもの]になる道の説示を<保持すること>と、清浄なものを有した者達は束縛されることはないであろう[という]<認識のみによって>、執着等によって[真実という清浄なものを]拒斥することはないであろう、ということはないのである、と言うのである²⁶⁵。[勝義の真実のみを示すような] 過度の戯論は不必要なのである²⁶⁵。

[114a6] [次に各乗の説明に戻り] 自己の語られるべきことが確かに把持されるべきである。[3-1] ²⁶⁶瑜伽行派と中観派の区別によって²⁶⁷、甚深のみである乗は二種類ある²⁶⁸。²⁶⁸一方で [3-1-1] [即ち] 瑜伽行者達は²⁶⁹、 [3-1-1-1]

²⁶² * *tadā paramārthasatya eva sthitatvāt .*

²⁶³ * *athāpi yathā viṣa-mantreṇa jvaro 'vṛddhīti śruti-mātreṇa grahaṇa-mātreṇa ca tasmin jñāne viṣābādha-jñāna-mātreṇa ca mahāviṣān śāntum aśakyam . api tu samudāgama-puruṣo śamayati .*

²⁶⁴ * *na tathā tattva-viśuddha-śrutena ca , tad-bhāvi-mārga-darśanam grahaṇeṇa ca , viśuddhi-vatas abandhinas jñāna-mātreṇa ca rāgādīnā na bādhayet iti .*

²⁶⁵ * *alam atyanta-prapañcena .*

²⁶⁶ * *Yogācāra-Mādhyamika-bhedena gāmbhīrya-mātra-yānam dvidvidham .*

²⁶⁷ Cf. PPU 169b6ff. de la rnal 'byor spyod pa pa rnamś dañ de bshin du dbu ma pa rnamś ni / rnal 'byor gyis bshi pa / chos thams cad stoñ pa ñid kyis dmigs su med cīñ śin tu snañ ba med pa / gcig tu dri ma med cīñ mtha' yas pa / nam mkha' lta bu'i snañ ba 'jig rten pas 'das pa'i ye śes yin par 'dod do / , また中観派、有相唯識派に対する批判は、MAU 262b6ff. 参照 ([早島2]) 。

²⁶⁸ これ以降 [松本3] p.166に和訳あり。

²⁶⁹ Cf. [密教4] p.263,9f.

*catuḥkoṭivinirmuktam jñānam vastu sadadvayam /
kalpaśūnyam anālambaṃ vidur vijñānavādīnaḥ // ,*

²⁷⁰→認識が形相を有しているのと、[3-1-1-2] 形相がないのとの区別によって、二種類なのである²⁷¹→他方同様に中観派は、[3-1-2-1] 世俗知の形相を語る[即ち認めている]者と、[3-1-2-2] それ[世俗知の形相]を習気であると語る者との区別によって二種類なのである²⁷²→今それらの認める自相を語ろう。

[114a8] [3-1-1-1] (1) ²⁷²→諸の形相を有している認識は²⁷³、自己認識²⁷⁴で刹那を本性としており[かつ]無常で分断なく生じる心によって外部にある如く確立している対象を感受するのであるが²⁷⁵→、²⁷⁵→この場合諸々の自己であり人間等という[心より]別の能取者である如何なるものもない²⁷⁶→。(2) ²⁷⁶→外部に個々に分けられてある如く確立した諸対象は、自己の認識のみにある形相であり、同様[則ち外部に個々に分けられてある如く]に虚空に依存して顕現として生じるが²⁷⁷→、²⁷⁷→[虚空より]他方の、自在神によ[って生じる] 蘊等という対象で所取であるもの²⁷⁸は、如何なるものもない²⁷⁹→一切[の認識]が自己認識を本性とすることのみによる場合でも、愛結・瞋結等[九つの結]の状態とされずに、資糧を完成し、そして後にまさにその心は、清浄な智恵[を本質とし] 卑しい (prākṛta) 決知を離れていることを本

また PPU 162a2 phi rol gyis 'byuñ ba chen po la sogs pa med bshin du yañ byis pa rnam der snab pa'i snañ ba'i rnam par śes pa skye la / .

²⁷⁰ * jñānasya sākāratva-anākāratva-viśeṣṇa dvividham .

²⁷¹ * tathā Mādhyamiko 'pi saṃvṛti-jñānākāravāda-tad-vāsanā-vāda-viśeṣṇa dvividham .

²⁷² * sākārāṇi jñānāni cetana svasaṃvedana-ksaṇikātmakāṇīyāvicchinnotpāda-cittena eva bāhyavat vyavasthitārtham anuvabhanti .

²⁷³ Cf. [宇井] p.5,3. cittam eva citrākāraṃ param nirapeksaparakāśata iti --.またcf. [密教1] p.185,6 citrādvaitādināṃ tu paramārthasad iti vijñānam apeśalam .

²⁷⁴ Cf. [密教4] p.259,7 svasaṃvittir artho mānaṃ vitteḥ sattvaṃ tad iṣyate /

²⁷⁵ * nātra ātmapuruṣādigrāhītā (or grāhako) kaścid asti .

²⁷⁶ * bāhye khaṇḍavat-sithiyo-arthāḥ svavijñānasyāiva ākāra evam gaganam āśṛitya utpadyante .

²⁷⁷ * nānyo īśvareṇa skandhādyartha grāhyo kaścid asti .

²⁷⁸ 例えば Nyāyabhāṣya では、Īśvara が世界の質料因であるという説 (īśvaraḥ kāraṇaṃ)が紹介されている (4-1-19)。

²⁷⁹ * sarveṇa svavijñānātmanā eva yatṛpy, anunaya-pratighādy-anavasare saṃbhāra-parisaṃmāptiṃ kṛtvā , tad cittam eva viśuddhi-prajñā-prākṛtādhyavasāya-virahātmakam kṣaṇānubandenōtpanna-sithitaṃ phalabuddha iti jānānti .

性とし、刹那〔滅性〕に随順して生じる状態となっていることが、〔最終的な階梯の〕結果が仏陀であると理解される*。

[114b4] [3-1-1-2] ²⁸⁰ 認識が無形相であると言う者達は、(1) 心は自己認識をし、相続に随って働き、刹那を本性とし、形相を離れており、如何なるものをも示すのでない[。そして] それら〔認識が無形相であると言う者達〕は、(2) 一者と[その] 相違したもの〔則ち多数〕から離れ²⁸¹ [るならばその] 諸習気は²⁸²、完全に清浄であり、一切の形相を離れ、自己認識を本性とし、〔物質の転変の認める学派もあるようだが、〕非物質である智恵において確立されるという〔転変があり〕この転変を、〔最終的な〕結果が等正覚仏陀であると伺察する*。

[114b6] [3-1-2-1] ²⁸³ 中観派の世俗知の形相を語る者達は、[112a7以下に示した如く] 勝義において〔四句分別という〕論理の集合によって、心と智恵とが無いと語るのである。世俗では、このよう〔則ちありのまま〕に確立された一切は、必ず心と意の形相を対象として、確立していると理解するのである*。

[114b8] [3-1-2-2] ²⁸⁴ 同様に、世俗〔知の形相における〕習気を語る者達²⁸⁵ が認めているのは、〔次の如しである。〕以前〔則ち中観派の世俗知の形相を語る者達の〕如き勝義の真実から、世俗として確立している諸々のものは、諸々の習気に他ならないのであるが、心は、形相をまた知(理解)を本性として顕現するのは

²⁸⁰ * Nirākāra-jñānavādīnaḥ cittam svasaṃvittir santāna-bandhena pravṛtīḥ kṣaṇātmakam ākāra-viraho na kiñcid vedakam , te cka-bhedaḥbhāyāṃ mukta-vāsanās praśuddhiḥ sarvākāra-rahitās svasaṃvitty-ātmakāḥ , ajaḍa-prajñāyāṃ sthitā 'yam parāvṛtīṃ (or pariṇāmaṃ) phalam samyag-sambuddham vicāryante .

²⁸¹ Cf. ckāṅcatvarahitam -- . Niraupamyastava 13 [酒井] p.13.

²⁸² Cf. [字井] p.5,8. vāsanāluṭitaṃ cittam arthabhāsaṃ pravartate .

²⁸³ これ以下 [Ruegg2] p.123に英訳, [松本3] p.166に和訳あり。

* Madhamika-saṃvṛtti-jñānākāra-vādāḥ paramārthatas na yukti-samudāyena citta-prajñe sta iti vadanti . saṃvṛtīyā sarvaṃ evaṃ-vyavasthitā citta-manoākāra-ṣiṣayi-sthitā kalpitā eva.

²⁸⁴ これ以下 [Ruegg2] p.123に英訳あり。

* evaṃ ca Saṃvṛtti-vāsanā-vādibhyas iṣṭāḥ ; paramārthatasya-pūrvavatas saṃvṛtīyā vyavasthāḥ vāsanā eva , na tu cittam ākāra-gamanātmanā bhātīti jñeyam .

²⁸⁵ ? gshan yañ dbu ma pa chos thams cad sgyu ma lta bu ñid dbu ma'i lam yin no shes zer ro / MAU 264b1 [海野9] p.20.

ないと、言うのである²⁸⁶。この〔中観派の〕両者によって、縁起の本性を認めることと、心と自己認識を否定する理論の証明は同じ〔ように理解されて〕いる²⁸⁷。

[115a2]ある者²⁸⁸は言う。「こ〔の中観派の中〕の両者は他者の見解を否定する場合 (anyadṛṣṭi-nirākaraṇe) 順次に、〔一方は〕〈有と、無と、有無と、有無の両方でもないもの〉と言ひ、〔他方は〕〈常住と、無常と、常住・無常と、常住・無常の両者でないもの〉と言うことによって、順次に (anukrameṇa) 四句分別は同じ〔則ち一様〕ではない (asamānam)」と〔解説して〕述べている²⁸⁹。

[115a3]甚深で広大である乗は、クリヤー（所作、kriyā）と、チャルヤー（行、caryā）と、ヨーガ（瑜伽、yoga）と、マハーヨーガ（大瑜伽、mahāyoga）と、無上ヨーガ（無上瑜伽、anuttarayoga）とによる分類の如きものである。²⁹⁰この場合、これら〔甚深で広大を有した乗の者達〕の自性は、はっきりと師達のみから〔直接に〕知ることができるのであるが、文章の文字を解釈することによって〔知ることができるのでは〕無いものである²⁹¹。また諸々の論理は、『真性入〔と名づくる善逝無餘説法略撰積論〕』等の諸々の文章の中でも、決定されていることによって、ここにおいて私が明瞭に分析することは無いという立場を取る²⁹²。以上が、甚深で広大〔である〕乗の確定である。

[115a6]「²⁹²もし必ず三乗であるならば、どうしてそれ〔三乗〕が一乗と語られよう²⁹³」〔と云うならば〕、これ〔則ち三乗であることと一乗であることと〕は不確定 (anaikānta) である。何故ならば、結果 (phala) に依存しているの〔一乗〕と、原因 (kāraṇa) に依存しているの〔三乗〕とである〔という相違がある〕から²⁹³。²⁹⁴一切

²⁸⁶ * ābhyām dvābhyām pratīyasamutpādātmana icchā ca citta-svasaṃvitti-nivṛtti-yukti-sādhanaṅ ca samānam .

²⁸⁷ Cf. PPU 162a5f. dbu ma rnams ni rgyu dañ 'bras bur snañ pa'i rañ bshin dañ / so sor rañ gi rig pa 'khrul pa'i mtshan ma rnams sgro brtags pa ma yin pa rnal ma gsal ba'i lus kyi chos rnams kyan zin tu phrab brtag me bzod pas yod pa yañ ma yin la / med pa yañ ma yin par 'dod do /.

²⁸⁸ この「ある者」を〔海野5〕p.445 では Advayavajra の説であると確定した。

²⁸⁹ この付近〔海野5〕p.114に和訳あり。

²⁹⁰ * atra cṣām svabhāvo vyaktena gurubhyas eva jñātum śakyam , na tu grantha-saṃdhi-vivṛttena .

²⁹¹ * nyāyānāṃ satyaparivartādi-grantheṣv api vinirṇayeṇa atrāham na vyaktam bhinadmīti sthitam .

²⁹² * yadi triyānam eva , te katham ekayānam vyākhyāyēt .

²⁹³ MMP 234a1ff. では 'bru'i 'bras bu ni rim gyis smin par 'gyur gyi cig car ni ma yin no / --

の乗は確定的に、[それが] 近くであれ遠くであれ正覚仏陀になることであるから、[その一切の乗を] 果への依存 [たる一乗] と語ったのである²⁹⁵。そのことによつて、『ナーマサンギーティ』に²⁹⁶

三乗の出離を、一乗の結果に確立する。

と語ったのは、²⁹⁷一切の乗の果が等証覚仏陀であると、密意しているのである²⁹⁸。そして世尊は、「[人は] 文殊 [菩薩] も説かれる [各人の] 機根から三乗に乗りつつ、法身からも不動である」²⁹⁹と賛嘆(stava)を語っているのである³⁰⁰。タントラにも³⁰⁰、

一切の乗は、自己と他者 (ātma-phala) を否定 (prahāṇa) しつつ、果は仏性 (buddhatva) を生起することであり、法界 (dharma-dhātu) からは相違がない (asambheda) [。そしてその] 場合

rim pa 'di gñis ni sa'i sñiñ po'i mdo las gsuñs te /

gañ la mtho ris theg pa yod min /

de la ñan thos theg pa med do /

gañ la ñan thos theg pa yod min /

de la rañ rgyal theg pa med de /

gañ la rañ rgyal theg pa yod min /

de la theg pa chen po med de.

²⁹⁴ * sarvayānānām niyamcṇa āsanna-dūra-sambuddha-bhāvena phalāśrayo uktaḥ .

²⁹⁵ Cf. Sār p.156,12ff. yady apy akṛtāvīkṛtān abhisamskṛtāḥ sarvadharmās tathāpi yathā kaścit tathāgatanimīto 'bhisambuddhiya dharmacakraṃ pravartya tribhir yānaiḥ sattvān paromocayati lokavyavahāreṇa na paramārthena tathāiva ca tathāgato ('piti yānatrayavikalpaḥ .

²⁹⁶ これ以下 [望月] p.62に和訳あり。

²⁹⁷ * sarvayāna-phalaḥ samyag-sambuddhabhāvam ity abhiprāyam .

²⁹⁸ * bhagavataś ca mañśrīyāpi vinyaya-indriyāt triyānam ārohamāṇo dharmakāyād api na calati iti stotraṃ vakati.

²⁹⁹ 有名な法華經序品には近似した記述はなく、文殊菩薩の関係する經典の中では『大宝積經文殊師利授記会』の中に「一無量衆生善根成熟。於三乘中得不退轉。文殊師利又白佛言一一」(大正卷11, p.348b3f)などのみが見受けられる。『華嚴經』中『普賢菩薩行願贊』にも「我行文殊室利行」(大正卷10, p.881a8)「mañjuśrī-prajñidhāna careyaṃ」(足利惲氏「普賢菩薩行願讚の梵本」京都大学文学部五十周年記念論文集 p.10)。またこの機根と三乗に関しては TV 全体を通じて示されている ([宇井] p.15)。

³⁰⁰ これ以下 [望月] p.50に和訳あり。

とあるのであって、この意味を密意して、「一乗でありつつ、方法も一つであって」云々と広く〔法華經に〕言うのである。³⁰¹もしくある乗が、不可思議を成就していると、世尊のお言葉『楞伽經』等の經典からも知られる>と言うならば³⁰²、〔答えよう。その意味は次の如しである。〕ここで

心が働く限りでは、諸乗に際限がない

という〔のであり〕こ〔の意味〕は、³⁰²三乗建立の乗に乗る特定の乗の者達のみが、縁起を現観するのであって³⁰³、³⁰³〔則ち〕ある者は、不浄〔觀〕を修習するのであり、ある者は一切處(地遍)を修習している間に、不可思議な悟入が輝くのである。しかし、三つ〔の乗〕の確立によって要約される以外の乗はありえないのである³⁰⁴。³⁰⁴何故ならば、それら〔三乗〕から別の見解は、確かに〔仏教より〕外部の外道のものになってしまうからである³⁰⁵。

以上のように、三乗をはっきりと莊嚴することによって、諸々の衆生が、尊敬を有し (gauravat)、三乗に素早く乗りつつ、生存の海 (bhava-samudra) を渡り、大衆 (mahā-sukha) を本性とし、大きなもの (sthūla) を莊嚴する者とならんことを

[115b6]三乗建立という〔書が〕大智者 (mahāvidvas) Ramākaraśānti 師の面前より、つくり終わる。印度の大教戒師 (mahopadhyāya) Kṛṣṇa pa と大校修翻訳官³⁰⁵、沙門 Chod kyi śes rab³⁰⁶ が、翻訳し、校閲して、確定した。

[本稿は1995年度早稲田大学特定課題研究助成費(個人研究95A70番)による研究成果の一部である]

³⁰¹ * yadi kaścid yānaḥ acintyena sādhya iti bhagavat-vacana-Laṅkāvatārādi-sūtre jñāyata iti cet ,

³⁰² * triyāna-vyavasthānārūḍha-yānais eva cke pratītyasamutpādam sammukhy-kuruvanti .

³⁰³ * aikyaśya aśubhā-bhāvanāśya , aikyaśya ca kṛtsnāyatana-bhāvanāśya antarc acintya-pratīpannam vitimiram , na tu trivyavasthānceṇa samkṣipto 'nya-yāno utpannaḥ .

³⁰⁴ * tcbhyo hy anya-dṛṣṭāśya niyameṇa bāhya-tīrthyena bhāvāt .

³⁰⁵ この shu chen gyi lo tshā ba とは筆者には不明であるけれど、〔袴谷1〕 p.15に従ってこのように翻訳した。

³⁰⁶ BA によっては Cho kyi śes rab の名は見出しえないが、Kṛṣṇa pa の名を持ちこの翻訳校訂者の可能性のある者を数名を数えられるが、誰であるか特定出来ない。

付 録

Ratnākaraśānti が尊敬しその著作を引用した Advayavajra には TR, Tattvadaśaka の他に Caturmudropadśa と呼ばれる仏教綱要書がある（ここではこの書を Advayavajra の真作であると仮に考えておく）。その扱いは、Skt. 原典が散逸し Tib. 訳のみしか現存しない上、密教的な要素が色濃いし、唯識・中観等の説明も簡略であるため、綱要書としてはさほど重要視されて来なかったようだ。しかし三乗の人々を九種類に分ける方法、三種声聞への言及、経量部を上位に置いた上での独覚と経量部の併記などは Advayavajra の他の著作 TR と一致するという点で注目に値する。そこで注目される TR を著した Advayavajra 作の綱要書ということも鑑みた上で、このテキストの概観を知ること無意味ではないと考えて、概要とテキストを公表する。テキストは主な訂正箇所のみを示す。

既にこのテキストに関する研究としては [立川] (p.16ff.), [磯田2] (p.116f.)があり、研究の指針を与えられている。また Advayavajra の作と言われている Caturmudrānīścaya と呼ばれる書物があり、Skt.も現存して CMU 研究の補助として役に立つし、同じく Sekatātparyasaṃgraha も同様である ([密教2]参照)。しかしテキスト自身に密教的な面が強く出ており、筆者の理解を越えている部分も多く（この点 [磯田2] による Guruparaṃparakramopadśa 研究が役に立った）、特に言葉の概念を知らなくては日本語にすることが危険であると思われる単語が多くあるので、敢えて先人の研究に依存した回収サンスクリット、あるいは還元サンスクリットを以て説明を付した。そういった多少の不便を持つての研究であることをご容赦願いたい。また詳しい考察についても省略した。

また他の後期印度密教徒による綱要書 Tripiṭakamāla の NTP, Subhagavajra の MPK, Kṛṣṇapāda の MMP もラフなパソコン入力を終えているので、専門で必要などなたかがおいでになれば、見直した上での利用をお願いしたい。

概 要（頁数は北京版の位置のみを示す）

仏教の教えは triyāna 三乗――則ち Śrāvakayāna, Pratyakabuddhayāna, Mahāyāna――に分けられる (231a3)。そしてその sthāna (派) は Vaibhāsika, Sautrāntika, Vijñapti (vādin), Mādhyamika の四つであり (231a4)、その prayoga (加行) は Śrāvaka, Adhimātra (Śrāvaka), Madhya (Śrāvaka), Pratyakabuddha, Sautrāntika, Sākāra

(Vijñaptimātratāvādin), Nirākāra (Vijñaptimātratāvādin), Māyopamādvayavādin, Sarvadharmāpratiṣṭhānavādin の九つである (231a5)。そしてその九つはそれぞれ四種 (231a6) 則ち vivṛti (教義) (231a6), dhyāna (or samādhi) (三昧) (23ab4), samādhimāla (三昧垢), dṛṣṭi (信仰) (最後の二つは232a1)から説明される。そして唯識と中観のみが Mahāyāna である Mantrayāna である。

また別に四種類の分類のし方がある。則ち

一.(232a4) (1) *aparajanmakrama (2) *gambhīrajanmakrama (3) *samāpattikrama
(4) *parisamāpattikrama (5) *svabhāvakrama

二.(232a5) (1) tathāgatāśvāsa (2) vajradharāśvāsa

三.(232a6) (1) *parikalpīte paratantrahita (2) *paratantrā pariniṣpanna (3) *pariniṣpannā
vajrasattva (4) *tasmin mahāsukhahetunā graha

四.(232a7) (1) karmamudrā [*gambhīrajanmakrama, *samāpattikrama] (2) dharmamudrā
[*parisamāpattikrama] (3) mahāmudrā [*svabhāvakrama] (4) samayamudrā
[*aparajanmakrama]

となる。それに引き続いて最後に分類された四種の mudrā の説明がある。

(1) karmamudrā は (1-1) kalaśa (1-2) guhya (1-3) prajñājñāna (1-4) caturthā [の灌頂] に分けられ(232b1)、特に prajñājñāna は (1-3-1) haṭṭha (yoga) (1-3-2) *lūka (1-3-3) *praṇīta に分けられそれぞれ (232b3) (232b8) (233a2) で説明される。

(2) dharmamudrā (3) mahāmudrā (4) samayamudrā はそれぞれ (233b3) (233b6) (234a2) 以下で説明されるが、更にそれぞれ四つの ānanda (ānanda, paramānanda, sahañānanda, virañānanda) に対応させる分類と、各印に四つの歓喜がそれぞれあり、全部で十六の ānanda があるとする分類もある。

[231a1](1569-4) rgya gar skad du / rtsa tu rmu dra [2] u pa de śa nāma / (5)

bod skad du / phyag rgya bshi'i man ñag ces bya ba /

dpal rdo rje sems dpa' pa la phyag 'tshal lo /

stoñ ñid sñiñ rje dbyer med ciñ /

zab ciñ rañ bhsin brtag dka' ba /

phyag rgya chen po'i [3] ño bo ñid /

phyag 'tshal nas ni de ñid bśad /

de la man ñag la (6) 'jug par 'dod pa'i rñal 'byor pas thog mar grub mtha' dag śes
par bya ste / de yañ theg pa ni rnam pa gsum ste / ñan thos kyi theg [4] pa dañ /
rañ sañs rgyas kyi theg pa dañ / theg pa chen po'o /

de ñid gnas pa bshi ste bye brag tu smra bar gnas pa dañ / mdo (7) sde par gnas
pa dañ / rnam par rig par gnas pa dañ / dbu mar gnas [5] pa'o /

de dag ñid sbyor ba dgu ste / ñan thos rab 'briñ gsum dañ / rañ sañs rgyas dañ /
mdo sde pa dañ / rnam bcas dañ rnam med dañ / sgyu ma lta bu gñis su med par
smra ba'i dbu ma (1570-1) dañ / chos [6] thams cad rab tu mi gnas par smra ba'i
dbu ma'o /

de¹ dag re re la yañ dbyod² pa'i sgo dañ / bsam gtan dañ / bsam gtan gyi dri ma
dañ / lta ba ste bshi bshi'o /

de la dpyod³ pa ni thos bsam la brten [7] ba'i rañ gi so sor rtog pa'i śes (2) rab'o /
bsam gtan ni rañ gi bsgom pa'i śes rab po /

bsam gtan gyi dri ma ni de'i⁴ dños su mi mthun pa'i phyogs so /

lta ba ni rañ gi sbyod ba la⁵ rañ gi śes rab [8] kyis zin pa'i⁶ khyad par dañ / rañ gi
'bras bu la blos yul du byed pa'o /

¹ D omits.

² correct dbyad

³ corerct dbyad

⁴ D; ri'i :P.

⁵ D omits.

⁶ D; bren ba'i :P.

de la ñan thos tha ma'i sbyod pa ni / sñon (3) po⁷ la sogs pa'i don khas len pa
sñon du 'gro bas brjod du med pa'i gañ zag 'dod pa'o / [231b1] 'briñ po ni de dañ
mthun pa'o / rab ni 'phags pa'i bden pa bshi yoñs su śes pas gañ zag stoñ par lta
ba'o / rañ rgyu la ni gzuñ ba stoñ* shiñ 'dzin pa khas len pa'o / mdo (4) sdc pa ni
gzuñ ba 'dus [2] par 'dod ciñ 'dzin pa tshogs drug go /
rnam bcas ni thams cad śes pa'i rnam par 'dod pa ste / sna tshogs gñis su med par
'dod pa'o / rnam med ni 'di dag thams cad sems ñid de / rnam pa [3] med par rig
pa'i ño bo 'dod pa'o / sgu ma (5) lta bu ni chos thams cad sgyu ma lta bu yañ dag
pa'i dños pos stoñ pa ste / de ñid gñis su med par 'dod pa'o / rab tu mi gnas pa ni
tha sñad thams cad ni [4] mchon(tshon?) pa tsam ste / don gyi ño bo cir yañ mi
gnas pa'o / shes dpyod pa'o /
bsam gtan ni mi sdug pa bsgom pa dañ / (6) srog dañ rtsol ba 'grañ ba la gnas pa
dañ / stoñ pa ñid kyi bden pa mar me [5] bsad pa lta bu ci yañ mi snañ ba la
sems gnas pa dañ / sna'i rtse mor gnas pa dañ / dgyil 'khor bsdus nas sems gnas pa
dañ / sems kyi rnam pa la sems gnas pa dañ / rnam pa (7) med pa la [6] gnas pa
dañ / gzugs brñan la gnas pa dañ / cir yañ ma grub pa'i ño bo ñid la gnas pa'o /
de la⁹ sems kyi rnam pa la gnas par bya ba ni dañ por ci yañ ruñ ba la śes pa gtai
/ de ñid sems [7] tsam du śes par byas te gnas pa'o / rnam pa med pa la (1571-1)
gnas pa ni thog mar mchod pa la sogs pa byas te / slob ma bstan¹⁰ la gshag¹¹ la
dbugs sor bcug ste / thog mar me tog lta bu la śes pa gtoñ [8] du bcug nas lag pa
spyi bor gshag¹² la ñags¹³ 'di brjod do /

oṃ a ra ra hūṃ hūṃ /

oṃ ba dzra yo gi ni a bhi ti śtha hūṃ phaṭ /

śes (2) pa'i mgor rañ gi yid mgyi sñags brjod do /

de nas me tog kyañ med par [232a1] byas na myur du skye'o /

bsam gtan gyi dri ma rnams dañ / lta ba rnams ni gshan nas gsal bas 'dir ma brjod

⁷ D; pa :P.

⁸ P; sto :D.

⁹ D; las :P.

¹⁰ P; stan :D.

¹¹ P; bshag :D.

¹² P; bshag :D.

¹³ D; sñag ma :P.

do /

de ltar na mi mkhas par rab rib can dañ / mkhas par rab (3) ¹⁴ [2] rib med pa'o /
de dag gi sñiñ rje yañ sems can la dmigs pa dañ / chos la dmigs pa dañ / dmigs
pa med pa'o /

de la gsañ sñags¹⁵ kyi theg¹⁶ pa ni theg pa gsum las [3] ni theg pa chen po'o / gnas
pa ni phyi ma gñis so / sbyor ba ni tha ma bhsi la'o /

(4) de la slob dpon ñid kyi gshuñ gis ni rab tu mi gnas par sbyor ba'o /

de lta na yañ de dañ thams cad du khyad med pa ni ma yin te / [4] ji skad du
don gcig na yañ ma rmoñs dañ thabs mañ dka' ba med pa dañ / dbañ

po rnon pos dbañ byas phyir / sñags (5) kyi theg pa khyad par ' phags /
shes gsuñs pas de brjod par bya ste / phyi bskyed pa'i [5] rim pa dañ / zab mo
bsked pa'i rim pa dañ / rdzogs pa'i rim pa dañ / yoñs su rdzogs pa'i rim pa dañ /
ño bo ñid kyi rim pa'o /

yañ de bshin gšegs pa'i (6) dbugs dbyuñ ba dañ / rdo rje 'chañ gi [6] dbugs dbyuñ
ba'o /

yañ kun brtags la gshan dbañ gi rgyu dañ / gshan dbañ la yoñs su grub pa dañ /
yoñs su grub pa la rdo rje sems dpa' dañ / de ñid la bde ba chen po'i¹⁷ rgyus gdab
pa'o /

yañ [7] phyag rgya bshi (7) las rtogs par bya ste / las kyi phyag rgya ni zab mo
bskyed pa'i rim pa dañ / rdzogs pa'i rim pa'o / chos kyi phyag rgya¹⁸ ni yoñs su
rdzogs pa'i rim pa'o / phyag rgya chen po ni ño bo ñid kyi rim pa'o / [8] dam tshig
gi phyag rgya ni phyi bskyed ba'i rim pa'o /

kun brtags (1572-1) la gshan dbañ gi rgya ni phyi bskyed pa'i rim pa'o / yoñs su
grub pa ni rgya¹⁹ ni lha thams cad kyañ rnam par rig pa tsam mo / rdo rjes sems
dpa'i rgya ni [232b1] rnam rig stoñ pa ñid du śes pa'o /

bde ba chen po'i rgya ni de ñid man ñag ñams su myoñ bar byas pa'o /

(2) las kyi phyag rgya ni dbañ gis ño bo ste / de yañ bum pa dañ / gsañ ba dañ
śes rab ye śes dañ / bshi [2] pa'o /

¹⁴ P inserted : rib can dañ / mkhas par rab .

¹⁵ D; sdugs :P.

¹⁶ D; thig :P.

¹⁷ P; pos :D.

¹⁸ D; phyags rgyu :P.

¹⁹ D; tgya :P.

bum pa ni slob dpon gyi dañ dman chad²⁰ de / lus dag par byed pa'o /
 gsañ ba ni thabs śes rab gñis las byuñ ba'i byañ chub kyi scms (3) ster²¹ ba ste /
 ñag dag par byed pa'o /
 śes rab ye śes [3] ni gsum ste / drag po dag / ñan pa dañ / bzañ po'o /
 de la drag po ni 'o dañ 'khyud pa nas brtsams te phyi rol gyi bya ba ni dga' ba ste
 / rnam pa sna tshogs so / gsub²² pa dañ gtsu²³ (4) pa'i sbyor ba ni rnam par [4]
 smin pa ste mchog dag'o / rin po cher ñams su myoñ ba ni mtshan ñid dañ bral ba
 ste dga' bral lo / pa dmar lhuñ ba ni rnam par ñed pa ste / lhan cig skyes pa'o shes
 'dod pa ste luñ dañ 'gal ba'o / luñ las [5]
 mchog dga'²⁴ bral (5) dga' dbus²⁵ dag tu /
 mchon²⁶ bya śes nas brtags²⁷ par gyis
 shes pa dañ /
 yañ dag dañ²⁸ 'bral dañ po mchog mtha' can
 shes pa la sogs pa brten²⁹ pa dañ / yañ
 dga' ba bshi ni dga' ba [6] dañ mchog du dga' ba dañ / lhan cig skyed (6)
 ba'i dga' ba dañ /dga'
 bral gyi dga' ba'o
 shes gsuñs so / 'on te luñ las lhan cig skyes pa tha³⁰ mar yod do she na / yañ bden
 mod kyi / de ni bla ma [7] la bltos³¹ pa dañ bral ba glegs pa³² mgyis mkhas par

²⁰ D; dhañ man bcas :P.

²¹ D; star :P.

²² P; bsub :D.

²³ P; srubs :D.

²⁴ P inseted :dga'.

²⁵ D; bus :P.

²⁶ D; mtshan :P.

²⁷ D; brtag :P.

²⁸ P; dga' :D.

²⁹ P; bstan :D.

³⁰ P; mtha' :D.

³¹ P; ltos :D.

byed pa'i gañ zag dag gis³³ phyed du dkrugs³⁴ (7) nas bśad de / 'dir grañs kyi bshi
par 'dug kyañ don gyis gsum par sbyar ro / de nas 'dir grag po'i sbyor [8] ba ni go
rim³⁵ dañ don gñis ka la mi mkhas pa'o /

da ni dbañ bskur ñan pa brjod par bya ste / 'o dañ 'khyud pa la sogs pa phyi rol
gyi bya ba ni (1573-1) rnam pa sna tshogs te dga' ba'o / bsrub pa dañ srubs³⁶ pa'i
sbyor ba ni [233a1] rnam par smin pa ste mchog ñag'o / rin po cher ñams su myoñ
pa ni mtshan ñid dañ³⁷ bral ba ste lhan cig skyes pa'o / pa dmar lhuñ ba ni rnam
par śes pa ste dga' bral lo / shes 'dod pa ste (2) mu stegs [2] pa dañ khyad med
pa'o /

ci'i phyir she na / ñams su myoñ pa la yañ dag par 'dzin pa'i phyir ro / de ni go
rim³⁸ la mkhas kyañ don la mi mkhas pa'o /

da ni dbañ bskur bzañ po brjod par bya ste / 'di'i lugs [3] kyis dga' pa bshi ni 'di
ltar (3) śes par bya ste / phyi rol gyi bya ba nas bskyed pa'i mthar thug pa ni rnam
pa sna tshogs pa'i dga' ba'o / rin po che'i mthar thug pa ñams su myoñ ba ni rnam
par smin pa ste mchog [4] dag'o /

mcom ldan 'das kyis /

bcu drug byed³⁹ phyed thig le can /

she bya ba ni⁴⁰ (4) thig le bshi'i gzugs kyi bshugs pa las gñis ni rdo rje rtse mo'i
cha la gnas / gñis ni pa dma'i ze 'u 'bru'i cha la gnas [5] pa'i mtshan ñid dañ bral
ba ste lhan cig⁴¹ skyes pa 'o / thig le bshi⁴² car yañ pa dma'i cha la gnas pa ni
rnam pa med pa ste dga' 'bral lo / de yañ (5)

³² D; glogs ba :P.

³³ D; gi: P.

³⁴ D; bkrugs :P.

³⁵ P; rims :D.

³⁶ D; bsrub :P.

³⁷ D omits.

³⁸ P; rims :D.

³⁹ P omits.

⁴⁰ P omits.

⁴¹ D omits.

⁴² D; gshi :P.

śes rab bcu drug lon pa la /
lag pa gñis kyis 'khyud⁴³ nas [6] ni /
rdo rje bril bu mñam spyor ba /
slob dpon dbaň du śes par bya

shes pa daň /

dbaň ni bshi yi graňs kyis kyaň /
dga' ba la sogs rim śes bya /

shes pa daň / thams cad (6) gsaň⁴⁴ ba'i rgyud las [7] kyaň /

gñis śor gñis ni mñam pa'i dbus /
rdo rje nas ni pa dmar reg /
rgyu la 'bras bu rgyus gdab ciň /
'di ni bdc chen rgyal po'o

shes gsuňs so /

de ltar na drag po'i skyor ba ni mi bskyed pa'i rgya [8]daň bral la dbaň bskur ñan
(7) pa ni rdo rje sems dpa'i rgya daň bral shiň rdo rje 'chad gi dbugs dbyuň ba daň
bral ba'o / 'dir rdo rje sems dpas mi bskyed pa la rgyas btab pa ni dbu ma'i lam
mo / de yaň luň [233b1] las mdor bstan pa daň / rgyas par bstan pa daň / śin tu
rgyas par (1574-1) bstan pa ste / de dag ni dbaň gi 'grel pa ñid na gsal bas 'dir ma
bris so / de ni śes rab ye śes kyi dbaň ste yid dga' [2] bar byed pa'o /
bshi pa ni śes rab ye śes kyi raň bshin dga' ba gsum daň tha mi dad pa rten 'brcl
(2) gyi ño bor zuň du 'jug pa ni bshi pa'o / de dag ni las kyi phyag rgya ste / rgyu
mthun⁴⁵ pa'i 'bras su skyed [3] par byed do shes *slob dpon klu sgrub* kyis bśad do /
chos kyi phyag rgya ni snaň grags kyi chos sna tshogs su snaň ba ñid de / de yaň
las kyi phyags rgya'i lhan cig skyes pa ñid las grol ba sna tshogs kyi rtog [4] pa
'byuň ba daň / sna tshogs kyi rtog pa 'gags ziň lhan cig skyes pa'i gzugs su gnas pa
daň / sna tshogs daň lhan cig skyes pa ñid du med pa daň / sna tshogs daň lhan
cig skyes pa gñis ka'i rtog pa [5] mi (4) dmigs pa daň / bshi ni chos kyi phyag
rgya'i dga' ba daň / mchog dga' daň / lhan cig skyes dga' daň / dga' bral lo / des
na chos kyi phyag rgya ni dños po ma bcos pa'i raň bshin las ma bcom pa'i [6]
phyags rgya chen po skye ba'i phyr nram par smin pa'i (5) 'bras bu shes brjod do /
phyag rgya chen po'i chos thams cad skye ba med pa'i ño bo zuň du 'jug pa / gzuň
ba daň 'dzin pa'i rtog pa daň bral ba / ñon moňs pa [7] daň śes bya la sogs pa'i

⁴³ D; gshi :P.

⁴⁴ D; dsaň :P.

⁴⁵ D; 'thun :P.

sgrib pa spañs pa / ji lta ba⁴⁶ bshin du rañ gi mtshan ñid ñams (6) su myoñ stc / dri ma med pa'i 'bras bur brjod do / de'i ño bo ni mtha' dbus kyi chos thams cad gzugs can ma yin pa [8] dañ / thams cad du khyab pa dañ mi 'gyur ba dañ / dus tham cad pa'o / des na phyag rgya chen po ni skad cig ma gcig⁴⁷ la mñon par (7) rdzogs pa⁴⁸ sañs rgyas pa stc / skad cig ma bshi dañ dga' ba bshir dbye ba ni [234a1] med do /

'on kyañ phyag rgya bshi la bltos⁴⁹ nas dga' ba bshir gshag⁵⁰ stc las kyi phyags rgya ni dga' ba'o / chos kyi phyags rgya ni mchog tu dga' ba'o / phyag rgya chen po ni lhan cig skyes pa'i dga' (1575-1) ba'o / [2] dam tshig gi phyag rgya ni dga' bral lo / de ñid ji lta ba bshin chos kyi 'khor lo'i dus su bla ma'i shal la ltos par bya'o / dam tshig gi phyag rgya ni de kho na ñid mtshon par byed pa 'bras bu lha'i dkyil 'khor te / de yañ rje btsun [3] kyis thabs mtshon pa dañ / (2) rje btsun mas śes rab mthson pa dañ / 'khyud pas gñis su med pa mtshon pa'i phyir dam tshig go / de yañ bskyed pa'i rim par bdun po dag par byas bas rgyu 'i he ru ka bskyed pa dañ / lha [4] mo'i 'khor lo spro ba dañ / ñi ma dañ zla bar thig le'i gzugs su (3) shub dañ / lha mo'i dbyañs kyis bskul ba dañ / 'bras bu rdo rje 'dzin par gyur pa ni dam tshig gi phyag rgya'i dga' ba bshi stc go rims bshin no / [5] 'bras bu lha'i 'khor lo 'di ni 'gro ba'i don 'dzin par byed pas skyes bu byed pa'i 'bras bu brjod do / de (4) ltar na phyag rgya bshi la dga' ba bshi bshi stc bcu drug tu śes par bya'o / phyag rgya bshi'i man ñag slob [6] dpon gñis med rdo rjes mdzad pa rdzogs so /

⁴⁶ D; ltar :P.

⁴⁷ P omits.

⁴⁸ D omits.

⁴⁹ P; ltos ;D.

⁵⁰ P; bshag :D.